

令和6年度



小中英研

いしかわ

第34号

石川県小中学校英語教育研究会

表紙マーク



∟ は Teaching、E は English の頭文字であり、この2文字で石川県の地形的特徴を形どったものである。

石川県中学校英語教育研究会のこれからの発展を願って、平成元年3月に図案化された我々の emblem である。

目 次

1	巻頭言	
	石川県小中学校英語教育研究会 会長	
	金沢市立鳴和中学校 校長 森中 静恵	・・・・・・・・・・4
2	石川県小中学校英語教育研究会 会則	・・・・・・・・・・5,6
3	令和6年度役員名簿	・・・・・・・・・・7
4	令和6年度研究会組織	・・・・・・・・・・8
5	令和6年度専門部組織	・・・・・・・・・・9
6	令和6年度事業報告	・・・・・・・・・・10
7	県小中英研 夏季研修会	・・・・・・・・・・11
	テーマ：小中学校の両現場経験を持つ先生方から学ぶ	
	講師：大阪府大東市立北条中学校 教諭 大脇 裕也	
	新潟県新潟市立下山中学校 教諭 山崎 寛己	
	報告：編集委員長 白山市立笠間中学校 教諭 福田 茜	
8	県小中英研 秋の研究大会	・・・・・・・・12～22
	授業者：金沢市立兼六中学校 教諭 西尾 正俊	
	単元名：Unit 8 A Surprise Party (New Horizon English Course 1)	
	授業者：金沢市立兼六中学校 教諭 田丸 聖汰	
	単元名：Unit 5 A Legacy for Peace (New Horizon English Course 3)	
	報告者：編集委員長 白山市立笠間中学校 教諭 福田 茜	
	研究委員長 白山市立光野中学校 教諭 吉田 基伸	
9	第48回東海北陸公立英語教育研究会 三重大会	・・・・・・・・・・23
	大会テーマ：未来へつなぐ実践的コミュニケーション能力の育成	
	～指導と評価の一体化～	
	報告者：幹事長 金沢市西南部中学校 教諭 木村 祐太	
10	各郡市活動報告	・・・・・・・・24～59

会誌「いしかわ」の発行に当たって

石川県小中英語教育研究会
会長 森中 静恵
(金沢市立鳴和中学校長)

はじめに、日頃より石川県小中学校英語教育研究会の活動にご理解とご協力をいただき、皆様方には心より感謝申し上げます。令和6年度の主要事業でありました夏季研修会、秋の研究大会及び8地区研究発表会を無事に行うことができたことは大きな喜びです。

夏季研修会につきましては、7月25日に県地場産業振興センターにおきまして、約60名の会員に参加いただき 大阪府大東市立北条中学校の大脇裕也教諭と新潟県新潟市立下山中学校の山崎寛己教諭より貴重なご講演を賜りました。すぐに学校の授業に生かせる内容でとても勉強になりました。

秋の研究大会につきましては、11月22日に金沢市中学校教育研究会英語部会のご協力のもと金沢市立兼六中学校において開催されました。加賀から能登まで約100名の会員が集まり、地域を超えた協議ができました。実際に授業を皆で参観し、生き生きと学ぶ生徒の姿や様々な工夫を凝らした教師の働きかけ等について意見交換できたことはとても有意義だったと思います。本当にありがとうございました。

8地区研究発表会につきましては、11月28日にオンラインで各地区の代表者による研究発表が行われました。これからも理想とする授業に近づくよう研究し、実践を振り返って改善を重ねられることを期待しています。知恵を絞り積み上げられた成果をご披露していただきありがとうございました。

会員の相互交流を通じた研究と実践というこれまでの継続した取組が、これからの未来を担う子供たちの英語力を育むための着実な歩みへとつながっていくことを期待しています。今後も皆様方のより一層のご理解とご協力をお願いし、令和6年度の会誌「いしかわ」の発行に当たってのご挨拶といたします。

石川県小中学校英語教育研究会会則

(名称)

第1条 本会は、石川県小中学校英語教育研究会と称する。

(目的)

第2条 本会は、石川県の英語教育の振興をはかるための事業及び研究交流を行うことを目的とする。

(会員)

第3条 本会の会員は、石川県内の小中学校、或いは他の教育機関に勤務し、英語教育に携わっている者、並びにこの会の目的に賛同して入会を希望する者とする。

(事業)

第4条 本会は、第2条の目的を達成するために次の事業を行う。

1. 英語教育に関する研究会
2. 研修会・講演会等の開催
3. 研究機関誌『英研会誌』の発行
4. 研究物・機関誌・研究情報等の交換
5. 他の研究団体との連絡並びに提携
6. その他、目的達成のための必要な事業

(役員)

第5条 本会には、次の役員を置く。
会長、副会長、幹事長、副幹事長、会計、会計監査、顧問

(役員の仕事)

第6条 役員の仕事は、次のとおりとする。

- ・会長は、本会を代表し、会務を総理する。
- ・副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時は、その職務を代行する。
- ・幹事長は、会長、副会長を補佐し、本会の会務を処理する。
- ・副幹事長は、専門委員長を兼ね、専門委員会の会務を処理する。
- ・会計は、会計事務を司る。
- ・会計監査は、会計を監査する。
- ・顧問は、本会が円滑に運営されるよう助言をする。

(役員を選出及び任期)

第7条 役員を選出は次のとおりとし、任期は1年とする。ただし、再任は妨げない。

1. 会長、副会長、会計監査及び顧問は、理事会で選出する。
2. 会長には、小中学校長をもって充てる。
3. 副会長には、小学校長1名、及び能登・金沢・小松の3ブロックの中学校長または教頭を充てる。
4. 幹事長、副幹事長及び会計は会長が委嘱する。

(機関)

第8条 本会には、次の機関を置く。
・理事会 ・運営委員会 ・専門委員会 ・郡市委員会

(理事会)

第9条 1 理事会は本会の議決機関であり、各郡市より選出された理事と役員で構成し、年2回会長が招集するほか、必要のある時には臨時に開くことができる。
2 理事会では、次の事項を審議決定する。
1. 会則等の改正に関する事
2. 役員等の承認に関する事
3. 事業や研究の大綱に関する事
4. 予算に関する事
5. その他本会の運営に関する事

(運営委員会)

第10条 運営委員会は、会長、副会長、幹事長、副幹事長、会計で構成し、本会の執行機関としてその目的を遂行するための会務を行う。

(専門委員会)

第11条 本会には、研究委員会、編集委員会、東陸準備室を置き、理事会の決定に従って会務を推進する。

(郡市委員会)

第12条 郡市委員会は、各郡市より選出された郡市委員で構成し、本会の事業の充実や会務の円滑な実施に向けて、各郡市及び域内の学校との連絡・調整を行う。

(経理)

第13条 本会の経費は、会費・補助金・その他の収入をもって充てる。
2 会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(事務局)

第14条 本会の事務局は、会長が委嘱する学校に置くことを原則とする。

(規定)

第15条 本会の運営に必要な規定は、別にこれを定めることができる。

付 則 1. 本会則は令和2年4月1日より施行する。

令和6年度 石川県小中学校英語教育研究会 役員名簿

役職	氏名	所属	郡市・ブロック	職名
会長	森中 静恵	鳴和中学校	金沢ブロック	校長
1 副会長	西野 聡子	金石町小学校	[小学校]	校長
2 副会長	泉 智一	津幡中学校	金沢ブロック	校長
3 副会長	若山 直代	中海小学校	小松ブロック	校長
4 副会長	坪野 昭	能登香島中学校	能登ブロック	校長
1 理事	尾崎 純子	山中小学校	加賀(小松ブロック)	校長
2 理事	若山 直代	中海小学校	小松(小松ブロック)	校長
3 理事	佃 洋子	寺井中学校	能美(小松ブロック)	校長
4 理事	西 有子	松陽小学校	白山(金沢ブロック)	校長
5 理事	若狭 朋幸	布水中学校	野々市(金沢ブロック)	校長
6 理事	森中 静恵	鳴和中学校	金沢(金沢ブロック)	校長
7 理事	泉 智一	津幡中学校	河北(金沢ブロック)	校長
8 理事	釜谷 剛	瑞穂小学校	羽咋市(能登ブロック)	校長
9 理事	芳網 清美	樋川小学校	羽咋郡(能登ブロック)	校長
10 理事	坪野 昭	能登香島中学校	七尾(能登ブロック)	校長
11 理事	山森 和子	中能登中学校	鹿島(能登ブロック)	教頭
12 理事	小川 由美子	門前中学校	輪島(能登ブロック)	校長
13 理事	吉村 明美	穴水小学校	鳳珠(能登ブロック)	校長
14 理事	河元 智志	蛸島小学校	珠洲(能登ブロック)	校長
1 郡市委員	小川 健生	錦城中学校	加賀(小松ブロック)	教諭
2 郡市委員	大浦 萌	松東みどり学園	小松(小松ブロック)	教諭
3 郡市委員	四間丁由起子	根上中学校	能美(小松ブロック)	教諭
4 郡市委員	前川 麻耶	松任中学校	白山(金沢ブロック)	教諭
5 郡市委員	竹田 さくら	野々市中学校	野々市(金沢ブロック)	教諭
6 郡市委員	吉岡 恵梨	高尾台中学校	金沢(金沢ブロック)	教諭
7 郡市委員	澤 友香	津幡中学校	河北(金沢ブロック)	教諭
8 郡市委員	杉森 優子	邑知中学校	羽咋市(能登ブロック)	教諭
9 郡市委員	塩谷 直輝	富来中学校	羽咋郡(能登ブロック)	教諭
10 郡市委員	丹後 育子	七尾中学校	七尾(能登ブロック)	教諭
11 郡市委員	坂本 華子	中能登中学校	鹿島(能登ブロック)	教諭
12 郡市委員	山本 安博	輪島中学校	輪島(能登ブロック)	教諭
13 郡市委員	岡本 春佳	穴水中学校	鳳珠(能登ブロック)	教諭
14 郡市委員	末田 翔吾	緑丘中学校	珠洲(能登ブロック)	教諭
《 事務局 》				
1 幹事長	木村 祐太	西南部中学校	金沢(金沢ブロック)	教諭
2 副幹事長	吉田 基伸	光野中学校	白山(金沢ブロック)	教諭
3 副幹事長	福田 茜	笠間中学校	白山(金沢ブロック)	教諭
4 副幹事長	春田 純佳	三谷小学校	[小学校]	教諭
5 顧問	野竹 陽一	鳴和中学校	金沢(金沢ブロック)	主幹教諭
6 会計	木村 祐太	西南部中学校	金沢(金沢ブロック)	教諭
7 会計監査	武藤 祐美子	高岡中学校	金沢(金沢ブロック)	教諭
8 会計監査	嶽 圭祐	松任中学校	白山(金沢ブロック)	教諭
顧問	滝沢 雄一	金沢大学人間社会研究域学校教育系		教授
顧問	久保 拓也	金沢大学人間社会研究域学校教育系		准教授
顧問	県市教育委員会	指導主事等		

石川県小中学校英語教育研究会 組織

会 長	1 名	(原則中学校長より選出)
副会長	4 名	理事より選出 小学校部会 1 名 中学校部会 3 名 (原則) 〔小松ブロック 1 名、金沢ブロック 1 名、能登ブロック 1 名〕
理 事	1 4 名	(原則管理職) 小松ブロック：加賀、小松、能美郡市 金沢ブロック：白山、野々市、金沢、河北郡市 能登ブロック：羽咋市、羽咋郡、七尾、鹿島、輪島、鳳珠、珠洲
幹事長	1 名	金沢ブロック (中学校部会) より選出。運営委員長を兼ねる
副幹事長	3 名	金沢ブロックより選出 ・小学校部会 1 名 (当面は連絡・調整等のみ担う) ・中学校部会 2 名 (研究委員長、編集委員長が兼任する)
会 計	2～3 名	金沢ブロックより選出 (小学校部会 1 名を含む)
郡市委員	1 4 名	各郡市より選出
会計監査	2 名	金沢ブロックより選出 ・小学校部会 1 名 ・中学校部会 1 名

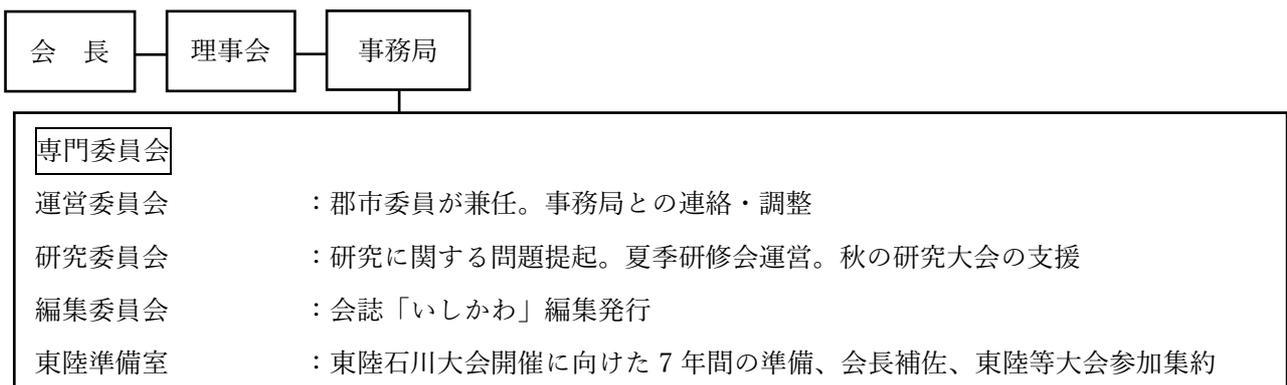
専門委員会委員長

運営委員長	： 県小中英研幹事長が兼ねる。
研究委員長	： 県小中英研 副幹事長を兼ねる。
編集委員長	： 県小中英研 副幹事長を兼ねる。
東陸準備室長	： 県小中英研 事務局の顧問を兼ねる。

事務局

幹事長、副幹事長、会計等で構成する。

〔組織図〕



令和6年度 石川県小中学校英語教育研究会 専門部組織

運営委員会 ・各都市への連絡・調整 ・都市会員より会費徴収							
(郡市委員兼任) 県中英研幹事長1名 + 郡市委員14名 = 15名							
幹事長	木村 祐太	加賀	錦城中学校	小川 健生	小松	松東みどり学園	大浦 萌
西南部中学校		能美郡市	根上中学校	四間丁由起子	白山	松任中学校	前川 麻耶
		野々市	野々市中学校	竹田 さくら	羽咋市	邑知中学校	杉森 優子
		河北郡市	津幡中学校	澤 友香	七尾	七尾中学校	丹後 育子
		羽咋郡	富来中学校	塩谷 直輝	輪島	輪島中学校	山本 安博
		鹿島	中能登中学校	坂本 華子	珠洲	緑丘中学校	末田 翔吾
兼務不可		鳳珠	穴水中学校	岡本 春佳	金沢	高尾台中学校	吉岡 恵梨

編集委員会・会誌「いしかわ」の編集と発行・諸会合における記録							
委員長兼県中英研副幹事長1名 + 金沢市近隣地区4名 = 5名							
委員長	笠間中学校	白山野々市			金沢		
福田 茜		河北郡市	津幡南中学校	田村 隆一	金沢		

研究委員会 夏季研修会と秋の研究大会の運営							
委員長兼県中英研副幹事長1名 + 全8地区各1名 = 9名							
委員長	笠間中学校	加賀	錦城中学校	徳田 祐也	河北郡市	内灘中学校	釜田 一磨
吉田 基伸		小松	板津中学校	久保 勝也	羽・七・鹿	七尾東部中学校	和田 千春
		能美郡市	根上中学校	四間丁由起子	鳳・輪・珠	小木中学校	中谷 住枝
		白山野々市	布水中学校	吉田 秀秋	金沢	浅野川中学校	安原 素子

東陸準備室 令和7年の東陸石川大会に備える部署 会長の補佐 外部関係業務の執行 大会参加集約							
若干名（中英研事務局経験者）							
		室長	鳴和中学校	野竹 陽一			

事務局 ・関係機関（教育委員会、大会会場など）との連絡調整 ・会計業務全般							
幹事長 西南部中学校 木村 祐太	副幹事長(編)	笠間中学校	福田 茜	会計	西南部中学校	木村 祐太	
	副幹事長(研)	光野中学校	吉田 基伸	副幹事長(小)	三谷小学校	春田 純佳	
	東陸準備室	鳴和中学校	野竹 陽一				

令和6年度事業報告

令和6年5月29日(水) 第1回理事・郡市委員研修会 15:30～ Zoomにて

参加者：理事（各郡市研究会英語部長）及び郡市委員

1. 令和6年度役員選出
2. 令和6年度組織・事業・予算案 協議
3. 令和6年度以降の研究体制について(確認)

令和6年7月25日(木) 夏季研修会

会場 石川県地場産業振興センター 本館第7研修室

午前の部 10:00～12:00

講師 大脇 裕也 氏 (大阪府大東市立北条中学校 教諭)

演題 「小中接続を意識した「文字指導」の在り方と「粘り強さ」を測る授業の提案」

午後の部 13:00～ 15:00

講師 山崎 寛己 氏 (新潟県新潟市立下山中学校 教諭)

演題 「児童・生徒が思わず表現したくなる! 「言語活動」の充実とその指導の工夫」

令和6年8月8日(木) 9日(金) 東海北陸公立学校英語教育研究会(三重大会)

会場：アスト津プラザ

記念講演 講師 関西大学外国語学部教授 今井 裕之 氏

研究協議会 第1分科会 「つなげる つながるコミュニケーション活動 ―読み・書きを中心に―」

第2分科会 「思考判断表現を培う活動について」 など

令和6年10月19日(土) 15:00～17:00 特別ワークショップ

会場：白山市立光野中学校

内容：英語で生徒とのやり取りを進める～オーラルイントロダクションとスモールトーク
(実演 木村 祐太)

令和6年11月15日(金)・16日(土) 全英連 埼玉大会

会場：両日ともに 獨協大学天野貞祐記念館 ほか

令和6年11月22日(金) 県小中英研 秋の研究大会(中学校)

会場：金沢市立兼六中学校 (R6：金沢地区の担当)

研究授業および整理会：

- ① 田丸 聖汰 教諭 3年 Unit5 A Legacy for Peace (New Horizon English Course 3)
助言者 滝沢 教授 (金沢大学)
- ② 西尾 正俊 教諭 1年 Unit8 A Surprise Party (New Horizon English Course 1)
助言者 林 主任指導主事 (金沢市教育委員会)

令和6年11月28日(木) 県小中英研 8地区研究発表会【最終】

会場：Zoomにて

時間：15:00～16:30

令和7年2月14日(金) 第2回理事・郡市委員研修会 15:30～ Zoomにて

参加者：各郡市研究会英語部長及び郡市委員

1. 令和6年度事業、決算報告
2. 令和7年度組織、研究体制等についての協議
3. 令和7年度事業計画、年度当初報告書類の連絡
4. 各専門部からの連絡

令和7年2月 会誌「いしかわ」発行

夏季研修会 報告

報告：白山市立笠間中学校

福田 茜

2024年7月25日(木)、石川県地場産業振興センターにて、「小中学校の両現場経験を持つ先生方から学ぶ」というテーマで、夏季研修会を行った。実際に現場で生徒を相手に授業をなさっている先生から授業実践について学ばせていただくという目的で、お二人の先生を講師としてお招きし、ワークショップ形式で講演をしていただいた。

○午前の部 演題：「小中接続を意識した「文字指導」の在り方と「粘り強さ」を測る授業の提案」

講師：大阪府大東市立北条中学校 大脇 裕也 教諭

大脇教諭は、大阪府公立中学校での勤務、大東市の英語コーディネーターを担当、四天王寺大学非常勤講師といった、豊富な経験をお持ちで、小中連携やより良い評価の在り方について、また、英語教育の「目的」について探究なさっている。ご自身の授業実践の中から、フォニックス指導の在り方や、具体的な指導方法をたくさん披露してくださった。また、生徒が自分自身の成長を感じられるような工夫についても多くのアイデアを持っておられ、Mission Sheet やライティングノートの活用方法、スピーキング活動に何度も挑戦できるようにしていることや、評価の仕方の工夫などについて話してください、できるようになってきていることの見える化の大切さについて学ばせていただいた。



大脇教諭は、大阪府公立中学校での勤務、大東市の英語コーディネーターを担当、四天王寺大学非常勤講師といった、豊富な経験をお持ちで、小中連携やより良い評価の在り方について、また、英語教育の「目的」について探究なさっている。ご自身の授業実践の中から、フォニックス指導の在り方や、具体的な指導方法をたくさん披露してくださった。また、生徒が自分自身の成長を感じられるような工夫についても多くのアイデアを持っておられ、Mission Sheet やライティングノートの活用方法、スピーキング活動に何度も挑戦できるようにしていることや、評価の仕方の工夫などについて話してください、できるようになってきていることの見える化の大切さについて学ばせていただいた。

○午後の部 演題：「児童・生徒が思わず表現したくなる! 「言語活動」の充実とその指導の工夫」

講師：新潟県新潟市立下山中学校 山崎 寛己 教諭

山崎教諭は、多様な生徒が学ぶ公立学校での授業のあり方を模索なさっており、2023 年度より月刊誌『英語教育』（大修館書店）にて「チーム中学高校英語 PRESENTS サステナブルな授業磨き」を連載なさっている。児童・生徒が表現したくなるような言語活動の設定に力を入れておられ、これまでに実践されてきた授業例をたくさん教えてくださった。教科書本文を活用した生徒によるオリジナルスキットの作成活動では、生徒自身に撮影場所も自由に選ばせ、完成した物をシェアさせている。また、英語を通してのお悩み相談活動、メッセージ性のある歌や詩の活用、人権について考えるスピーチ活動などの多種多様な活動によって、児童・生徒が言語活動へのモチベーションを高めていくことがよくわかる実践発表をしてくださった。



山崎教諭は、多様な生徒が学ぶ公立学校での授業のあり方を模索なさっており、2023 年度より月刊誌『英語教育』（大修館書店）にて「チーム中学高校英語 PRESENTS サステナブルな授業磨き」を連載なさっている。児童・生徒が表現したくなるような言語活動の設定に力を入れておられ、これまでに実践されてきた授業例をたくさん教えてくださった。教科書本文を活用した生徒によるオリジナルスキットの作成活動では、生徒自身に撮影場所も自由に選ばせ、完成した物をシェアさせている。また、英語を通してのお悩み相談活動、メッセージ性のある歌や詩の活用、人権について考えるスピーチ活動などの多種多様な活動によって、児童・生徒が言語活動へのモチベーションを高めていくことがよくわかる実践発表をしてくださった。

県小中英研 秋の研究大会 授業報告

報告：白山市立笠間中学校

福田 茜

白山市立光野中学校

吉田 基伸

2024年度の県小中英研の秋の研究大会は金沢市立兼六中学校で開催された。兼六中学校のお二人の先生に研究授業を行っていただき、授業実践について学ばせていただいた。

授業者：教諭 西尾 正俊

単元名：Unit 8 A Surprise Party (New Horizon English Course I)

本時の授業は、Unit8 の単元末活動として、ALT の先生を昼休みの活動に誘うにはどうしたらよいかを生徒が考えるという内容であった。現在進行形の単元末活動でよく見られる学校紹介動画の作成というものではなく、日常生活で活用できそうな場面を想定し、実際に使ってほしい、という授業者の強い思いがあつての授業であった。

生徒たちは、既習の表現を用いながら、ALT の先生の好みや状況に応じて、対話の展開を考え、ペアで、生徒役と ALT 役になって、実際の場面を想定して対話を行っていた。人を誘う場面で現在進行形を使わせるために、「友だちが今、〇〇をしているから、一緒にしない？」という流れを設定していた。相手を変えながら対話を繰り返したり、教師の問い返しや、生徒のモデルから学んだりする中で、徐々に自然な流れの対話に近づけている生徒が多く見られた。

また、ICT の効果的な活用も行われていた。オクリンプラスで作られたカードを用いて、授業の最初にペアでやりとりをしたり、ALT の先生を誘う場面を考える際に活用したりしていた。まとめ活動としては、話した内容の中で使えるような表現をオクリンプラスを用いて入力した後、みんなのボードに提出させることで、他の生徒の表現からも学べるように工夫がなされていた。

授業整理会では、以下のような意見が出た。

- ・生徒たちが英語を話す場面が多く設定されていた。
- ・先生と生徒との英語でのやりとりが多かったのがよかった。
- ・この授業の後にインタビューテストが設定されているのであれば、具体的な評価基準を先に示しておく、今日の授業での生徒の使用する英語表現がさらに豊富になったのではないか。
- ・授業者の、生徒が実際に ALT の先生を昼休みに誘ってくれたら嬉しいという思いから授業づくりがスタートしていることが素晴らしい。

授業者:金沢市立兼六中学校 教諭 田丸 聖汰

単元名:Unit 5 A Legacy for Peace (New Horizon English Course 3)

本単元では、ガンディーの生涯と功績について扱われている。言語材料としては接触節や関係代名詞が取り扱われ、名詞を後ろから修飾する方法について学ぶことができる。

単元末の活動には、ALT のシビー先生に自分の憧れの人物の魅力やその人に対する自分の思いを伝える活動を設定していた。本時は単元末活動の2時間目であり、1時間目に作成したマッピングに、シビー先生の好みや、レジリエンスに関する内容を加筆して、練習する時間であった。



生徒はとても意欲的に授業に取り組み、間違いを恐れずに英語で何とか伝えようという姿が見られ、英語が苦手な生徒も取り組みやすい学習基盤が整えられていた。また、教員のモデルを動画で見せ、よかった点や改善点を生徒に考えさせ、本時の目標に向かって指導していた。生徒はシビー先生に興味・関心を持ってもらえるように、常に相手意識を持ち、どのような視点を持っていた。生徒自身がどのようにマッピングを豊かにできるか考えられる工夫が他にも多々見られた。

整理会では、兼六中が学校全体として取り組んでいるレジリエンス教育を英語の授業内でも実践している点がよかったという意見があった。ただ、生徒が選んだ憧れの人物が必ずしもシビー先生の好みと合うわけではなくレジリエンスがあるわけでもないの、もう少し自由に発想できる手立てがあってもよかったのではないかという意見もでた。

滝沢先生からは、相手意識を持たせるためには見方・考え方を働かせることが大切であり、相手の立場になって自分の発表内容や使用する文法事項などを精査する力が必要であるとアドバイスをされていた。

今回の研究授業から、英語を苦手とする生徒も安心して自分の考えや思いを英語で伝えられる学習基盤が大切であるということが改めて分かった。また、単元末ではどの技能を評価するのか、その技能を評価するためにどのような指導を単元全体で行っていくのかなど、教員がはっきりとした指導計画を持つことの重要性について考えられる機会となった。

第 1 学年 7 組 英語科学習指導案

令和 6 年 1 月 2 2 日 (金) 6 限

場 所 1 年 7 組教室

指導者 教諭 西尾 正俊

1 単元名 Unit8 A Surprise Party NEW HORIZON English Course1 東京書籍

2 目 標

- ・今していることについて説明したり，たずねたりすることができる。

3 評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと(やり取り)	<p><知識>誕生日にほしいものをたずねる表現や，今していることを伝える文，現在進行形を用いた文，感嘆文の特徴や決まりを理解している。</p> <p><技能>誕生日にほしいものをたずねる表現や，今していることを伝える文，現在進行形を用いた文，感嘆文などを活用して，今していることについて説明したり，たずねたりすることについて内容を捉えたり，事実や自分の考えを表現したりしている。</p>	<p>目的や場面に応じて，今していることについて説明したり，たずねたりすることについて事実や自分の考えを表現したりしている。</p>	<p>目的や場面に応じて，今していることについて説明したり，たずねたりすることについて事実や自分の考えを表現したりしようとしている。</p>

4 指導にあたって

(1) 教材観

本単元では，メグへのサプライズ誕生日パーティーを準備する海斗が，それとは気づかれないように電話でメグを誘う場面から始まる。朝美とジョシュとともにパーティーの準備をし，実際にメグを驚かせる場面が続く。

言語材料としては，現在進行形及び感嘆文が扱われている。進行形は電話での会話やビデオ撮影など，実際に起こりうる自然な場面で提示している。また，進行形の文は授業中でのインタラクティブで絵や写真の中の人物の動作を示す際に使う表現で，使用頻度も高いものである。今後も継続的に自然なやりとりの中で提示し，定着を目指したい。感嘆文に関しては友達へのサプライズという生徒にとって身近で理解しやすい設定である。

(2) 生徒観

チャットやペアワークを意識的に取り入れているため，英語での対話には慣れている生徒が多く見られる。これまで，ALT とのインタビューテストや，質問をする活動を行った際には，十分に準備・対策をして ALT との会話に臨み，楽しむ様子も多く見られた。一方で英語に苦手意識があり，個別に支援する必要がある生徒もいる。また，視覚情報が優位な生徒もいるため，授業での指示に工夫が必要である。ICT に関しては，小学校からクロームブックやミライシードを活用してきた。端末を使っの授業は他教科でもあり，得意な生徒が周囲の困っている生徒を助ける姿勢が見られる。

また，本単元ではサプライズパーティーの準備など，生徒にとってなじみのある場面が設定されている。学校生活などの生徒の日常と授業を繋げ，自然な形での言語材料習得を目指すことができる。

(3) 指導観

本単元で中心となっている現在進行形の文は，現在の状況を伝えるために使われる他，授業中でのインタラクティブで絵の中の人物の動作を示すのに使われる。特に後者では今後も多用されるので，自然なやりとりの中で定着を目指したい。動詞に ing を付けることは比較的早く定着するが，be 動詞を付けること及び適切な be 動詞の選択の定着には時間がかかるのであせらずに練習させたい。

単元末には、ALT を昼休みの活動に誘う活動を設定している。場面と状況、相手を明確にし、生徒一人ひとりに目的意識を持って課題に取り組ませたい。自分自身でふり返る時間を設定し、表現を改善する機会を確保する。指示する際には、視覚情報優位の生徒のためにも、板書やスライドなどで明示し、やるべきことをはっきりさせる。また、本単元での学習を日常生活に繋げ、実際に昼休みにALT と会話する生徒が一人でも多く増えるように促していきたい。

5 単元の指導計画及び評価計画

(総時数 9時間)

次	主な学習内容<課題>	時数	指導 (○) と【評価観点】 <方法>
第一次	Starting Out, Preview <Unit8でできるようにになりたいことは> ○教科書の登場人物の電話の会話を聞きとる相手の都合を確認できるようにになりたい。今していることを聞いたり伝えたりしたい。	1	○新単元の見通しを持てるように、そこで必要となる表現や語彙を予想させる。 相手が今していることを知るために、情報をたずねたり答えたり、聞き取ったりしようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 <評価カード>
第二次	Story 1 <自分の都合を伝えるには> ○メグと海斗の電話でのやりとりを聞き、今していることなどを理解する。 ○相手の都合をたずねる表現を理解する。	1	○be 動詞+ing の形を繰り返し発話し、印象付け、現在進行形を定着させる。現在進行形の疑問文の形・意味・用法を理解している。【知識・技能】 <ワークシート>
第三次	Story 2 <朝美たちは何をしているだろう> ○教科書を読み、登場人物が何をしているか読み取り、情報を捉える。 <していることを伝え合おう> ○絵の人物がしていることをたずねたり伝えたりする。	2	○画像を提示し、場面を意識して読み取りをさせる。 今だれが何をしているか今していることを知るために、現在の動作について、聞いたり読んだりして情報を捉えている。【思考・判断・表現】 <ノート> ○絵を見て何をしているかたずね合うペアワークを行う。 今していることについて、現在進行形の疑問文などを用いて、たずねたり答えたりする技能を身に付けている。【知識・技能】 <ペアワーク、評価カード>
第四次	Mini Activity <友達がしていることをたずねよう> ○ジェスチャーをしている友達がしていることを推測し、質問する。 ○昼休みにしていることを伝え合う。	1	○オクリンクでだれがどこで何をしているかを英文にまとめさせる。 現在の状況を知るために、人が今していることについて、簡単な語句や文を用いてたずねたり答えたりしている。【思考・判断・表現】 <オクリンク>
第五次	Story 3 <驚いたメグはどんなコメントをするだろう> ○メグや絵の人物の気持ちを表す台詞を聞いたり、読んだりする。	1	○教科書の状況を理解させ、感嘆文を用いるような場面を想像させる。 感嘆文の形・意味・用法を理解している。【知識・技能】 <ノート、評価カード>

第六次	Unit Activity <昼休みの活動にどう誘えば、シビー先生と仲良くできるだろう> ○シビー先生の都合を動画で理解する。 ○昼休みにだれがどこで何をしているのか確認する。 ○相手の都合を確認し、シビー先生を誘う表現を考える。	1	○動画でシビー先生の状況を確認し、場面と状況に合った表現を考えさせる。現在進行形などを用いて、相手に状況を説明し、誘う表現を用いている。【思考・判断・表現】<オクリンプラス>
	<シビー先生と仲良くなるために、昼休みの活動に誘おう> ○ALTと1対1のインタビューテストを行い、相手の都合や状態、いましていることを確認し、昼休みの活動に誘う。	1	○前回の自分の動画を確認し、シビー先生を誘う表現のポイントを意識させる。現在の状況を伝えるために、人が今していることについて、簡単な語句や文を用いてたずねたり答えたりしようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】<ワークシート、評価カード>
第七次	単元の振り返り <Unit8を振り返ろう> 単元テストと評価カードで、Unit8の自身の学習を振り返る。	1	○評価カードを見返して、できるようになりたいことをどれくらい達成できたか振り返らせる。言語活動への取組に関して見通しを立てたり振り返ったりして自らの学習を自覚的に捉えている。【主体的に学習に取り組む態度】<評価カード>

6 本時の学習

(1) ねらい

- ・相手の都合や今していることを確認し、目的に応じて誘うことができる。
 (第六次中1時) 【思考力・判断力・表現力等】

(2) 学習過程

学習活動と生徒の主な思考の流れ	時間	支援（・）と評価（○）
1 導入 ・挨拶を行う。 ・オクリンプラスのカードをみて、やり取りを行う。 What is the boy doing? He is Masatoshi. He is playing volleyball in the gym. ・動画を見て、ALTがいま何をしているのかななどを教師と確認する。 Look! What is Shibby doing? She is drinking coffee on the sofa. Shibby is free now. What will you do? Why don't we have a nice lunch break with your friends and Shibby?	7	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に作成したカードを取り上げ、既習事項と今回の学習をつなげる。 ・ペアの英語を確認し、英語で表現する助けとする。 ・状況を明確にし、目的意識を持たせる。
2 本時の課題をつかむ シビー先生と昼休みに何をしようかな。 シビー先生が好きなことはサッカーだったな。 どこでだれが何をしているかはカードに書いてあるぞ。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の流れを明示し、見通しを持たせる。

学習課題

<昼休みの活動にどう誘えば、シビー先生と仲良くなれるだろう>

<p>3 話す活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カードを提示し、ペアで生徒役、ALT 役に分かれ、ALT を昼休みの活動に誘う対話を即興で行う。 生徒役 Masa is in the gym. Can you come with me? ALT 役 What' s he doing there? 生徒役 He is playing volleyball there. ・対話のフィードバックを行い、チェックポイントを確認する。 ① 場所を伝えているか。 ② していることを伝えているか。 ③ 相手に応じて誘うことができたか。 <p>4 ペアワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらに動画を見て ALT の状態を把握する。 ” I' m full.” と言っていたから、体育館で運動するのはやめておいた方がいいかも ・状態に合わせて誘う内容を考え、カードを見せながらペアで役に分かれ対話を行う。 ・列ごとに移動して 5 名程度の級友と対話する。 <p>5 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オクリンクプラスに、今回行った対話を一つ書き、みんなのボードに提出する。 	<p>7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の様子を見取り、今回のポイントを全体で共有する。 ・①場所と②していることを伝える表現に注目させ、ペアや個人でエラーチェックができるようにさせる。 <p>13</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動画を用意し、相手の状態が視覚的にも分かるようにする。 <p>10</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カードを見て、表現を確認できるようにする。 ・生徒の良い姿を見つけ、全体に周知する。 ○状況を理解し、今していることを説明したり、相手がしていることをたずねたりしている。 【思考・判断・表現】（オクリンク、活動）
<p>生徒役 Hi, Shibby How are you? Masa is in the gym. Can you come with me? ALT 役 What' s he doing there? 生徒役 He is playing volleyball there. You like sports, right? Why don' t we play volleyball together? ALT 役: Sure!</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・代表者がテレビの前で実演する。 ・良かった点について伝え合う。 <p>6 振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りを評価カードに書き込む。 ・教師による次時の予告を聞く。 	<p>7</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導で代表者候補を後押しする。 <p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回のインタビューテストへの自分のポイントを明確にさせる。

(3) 本時の授業の工夫点

- ・ALT の先生を対象にして、目的意識を持ち、主体的に取り組むしかけを取り入れる。
- ・生徒のやりとりの見取りから、ポイントや良い点を全体共有する。

7 板書計画

<p>< 昼休みの活動にどう誘えば、シビー先生と仲良くなれるだろう ></p>		
<p>授業の流れ</p> <p>① Warm up</p> <p>② 本時の課題</p> <p>③ Practice</p> <p>④ Pair Work</p> <p>⑤ まとめ</p> <p>⑥ 振り返り</p>	<p>シビー先生</p> <p>場所 on the sofa</p> <p>していること She is drinking coffee.</p> <p>Favorites sports, studying, talking...</p> <p>状態 I have energy, I' m full, I' m relaxed</p> <p>誘う表現 Can you ~? Why don' t we ~? Let' s ~.</p>	<p>マサ</p> <p>gym → Masa is in the gym.</p> <p>Playing volleyball</p> <p>→ He is playing volleyball</p>
<p>チェックポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 場所を伝えているか。 ② していることを伝えているか。 ③ 相手に応じて誘うことができたか。 		

第 3 学年 3 組 英語科 学習指導案

令和 6 年 1 1 月 2 2 日 (金) 5 限
場 所 3 年 3 組教室
指導者 教諭 田丸 聖汰

1. 単元(題材)名 Unit5 A Legacy for Peace(NEW HORIZON English Course3)

2. 単元の目標

- ・名詞を修飾する文と関係代名詞の用法を理解し、ALTの先生に憧れの人物についての魅力を伝え、その人物について、ALTの先生が興味・関心を持つきっかけとなる発表をすることができる。

3. 単元の評価の規準【話すこと(発表)】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><知識> 名詞を修飾する文と、関係代名詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。</p> <p><技能> 自分の憧れの人物について、事実や自分の考え、感じていることやその理由を整理し、接触節や関係代名詞を用いた文で話す技能を身に付けている。</p>	<p>シビー先生(ALT)に憧れの人物についての詳しい情報を整理し、相手が興味・関心を持てる魅力が伝わる文章を簡単な語句や文を用いて話している。</p>	<p>シビー先生(ALT)に憧れの人物についての詳しい情報を整理し、相手が興味・関心を持てる魅力が伝わる文章を簡単な語句や文を用いて話そうとしている。</p>

4. 指導にあたって

(1) 教材観

本単元では、インドの民族独立運動の最高指導者であるガンディーの生涯と功績を扱っている。本単元に現れる基本思考は、彼の活動の根底に流れる非暴力の精神であり、自分の身体を犠牲にしても非暴力を主張し続けたガンディーの精神について、自分に置き換えて考えることが大切である。また、この単元では、接触節や関係代名詞を取り扱っており、名詞を修飾してより詳しく説明する方法について学ぶことができる。単元末ではシビー先生(ALT)に自分の憧れの人物の魅力や自分の思いを発表する活動を設定する。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、英語を苦手と感じている生徒が多くいるが、全員が授業に前向きに取り組んでいる。スライドを用いての人物紹介は1, 2年時より取り組んでいるため、発表に対しての抵抗感は少ない。しかし、正確にまとめた文章で表現できる生徒の割合が低く、モデルとなる表現や文章を求めてしまう生徒も多い。そのため、既習で学んだ文法を活用させる力を身に付けさせ、自分で考え、気持ちを整理し相手に伝わるまとまりのある内容を構成する力も付けたい。

(3) 指導観

本単元では、話すこと【発表】に重点を置いて指導する。単元末に「ALTに自分の憧れの人物について話そう」という課題設定をする。この課題を達成するために、単元の1時間目に当核単元終末の言語活動をイメージさせることで、見通しをもって学習に取り組めるようにしたい。また、単元を通して、自分の憧れの人物について話す言語活動を継続し、タブレット端末に録画した自分の動画を振り返ることで、自己の成長を実感し更なる意欲へとつなげていきたい。関係代名詞は苦手意識を持つ生徒の多い文法と言われるが、これまでは複数の短文で紹介した内容を、関係代名詞を用いることで

少ない文数で表現できる有効性を気づかせたい。また、単元末の憧れの人物を紹介する文を書く際に魅力をわかりやすく伝え、相手に興味を持ってもらえる工夫も指導していきたい。

5. 指導計画（全9時間）

次	主な学習内容<課題>	時	支援（・）と評価（*）
第一次	<p><自分の憧れの人物を相手に興味を持ってもらうには？></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ALTの憧れの人物についての動画を鑑賞し、内容を理解する。 ・単元の目標を設定する。 ・既習の文法を用いて、自分の紹介したい人を説明する。 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・新単元の見通しを持てるように、そこで必要となる表現や語彙を英文だけでなく、写真などを用いて視覚的に具体例を示す。 <p>*既習の文法で自分の憧れの人物が好きな理由などについて簡単に説明しようとしている。</p> <p>【主体的に取り組む態度】<動画></p>
第二次	<p><ガンディーについて知り、英語で説明しよう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書を読み、ガンディーの生い立ちについて理解する。 ・ガンディーについて前時の英語を用いて表現する。 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすい英語で理解させ、英語のまま理解できるように支援する。 ・ガンディーの特徴や生い立ちをグラフや画像を提示し、場面を意識して読み取りをさせる。 <p>*ガンディーについての情報を整理し、英語で表現している。</p> <p>【知識・技能】<ワークシート、観察></p>
第三次	<p><人や物について詳しく説明するには？></p> <ul style="list-style-type: none"> ・文法の使用例を示して、自分の紹介したい人を詳しく説明する。 ・関係代名詞を用いた文を使って、新しいALTの先生にシビー先生について紹介する練習を行う。 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・関係代名詞を使用する場面を絵や写真などで視覚的に示して。具体的にイメージさせる。 ・人やもの、場所について説明する文を話す活動を設けて良い例を共有する。 <p>*関係代名詞whoを用いた文の形・意味・用法を理解している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】<ワークシート、観察></p>
第四次	<p><ガンディーの多大なる功績をまとめよう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書本文を読み、概要を捉える。 ・ガンディーについてマッピングでまとめる。 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・読解問題を通してインドを変えてきたガンディーが国のために何をしたのかをまとめさせる。 <p>*関係代名詞thatを用いた文の形・意味・用法を理解している。</p> <p>【知識・技能】<ワークシート></p>
第五次	<p><ガンディーについて自分なりに紹介しよう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書内よりガンディーに必要な情報のみをまとめる。 ・マッピングのキーワードをみてガンディーについて説明する。 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に使用した人生表を使用し、説明するために必要な情報をグループでまとめる活動を行う。 *ガンディーの生涯と功績について時間軸に沿って説明している。 <p>【思考・判断・表現】<動画></p>
第六次	<p><憧れの人物を具体的に伝える発表は？></p> <ul style="list-style-type: none"> ・マッピングで自分の憧れの人物についてまとめる。 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・マッピングに伝える内容を書かせ、話す順番を考えさせる。 <p>*憧れの人物について自分の思いを話そう</p>

	・自分の思いを伝えようとしている。		としている。 【主体的に学習に取り組む態度】 <動画>
第七次	【本時】<シビー先生に興味・関心を持ってもらう内容にするには？> ・伝える相手に興味・関心を持ってもらうための文を考える。	1	・憧れの人物の魅力や相手が好きな物に関連した内容を加えさせる。 *興味・関心を持ってもらえる内容を相手に伝えようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 <動画>
第八次	<「憧れの人物」を伝えるために、自分の目標を意識しながら、発表をしよう> ・相手に自分の思いが伝わる姿勢で話そうとしている。 ・録画動画や友達の評価を参考に改善を図ろうとしている。	1	・発表練習の機会を与え、適切な発表の姿勢を考えさせる。 何度も原稿を読み、暗記して発表できるようにペアワーク練習を行う。 *自分の憧れの人物について聞き手が興味を持つような姿勢で発表使用としている。 【主体的に学習に取り組む態度】 <観察>
第九次	<憧れの人物をALTの先生に発表しよう> ・憧れの人物の写真を見せながら、その人の魅力などを交えながら発表している。	1	・自分の憧れの人物を発表後にALTから英語で質問をし、簡単なやりとりを行う。 *シビー先生（ALT）に憧れの人物についての詳しい情報を整理して加え、相手が興味・関心を持てる魅力が伝わる内容を話している。 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 <発表>

6. 本時の学習（第七次）

本時のねらい

- ・シビー先生（ALT）に自分の憧れの人物について、興味・関心を持ってもらえる内容を相手に話すことができる。【学びに向かう力、人間性等】

学習活動と生徒の思考の流れ（・）	時間	支援（・）と評価（※）
<p>1 本時の課題をつかむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復習 前時に作成したマッピングを見ながら自分の憧れの人物を2～3人ペアを変えて伝える ・動画①をみる 動画①・・・自分が好きな理由しか述べていない内容 ・Shibby looks bored. Why? と生徒に投げかける 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・良くないモデルを見せ、ありきたりの情報を伝えるだけではなく、自分の憧れの人物に対する魅力を伝えるために、内容を工夫することを意識させる
<p>〈 シビー先生に興味・関心を持ってもらう内容にするには？ 〉</p>		
<p>○ この内容を興味・関心を持ってもらうためには何が足りないのだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きなことを伝えるだけでは相手は興味を示さない可能性もある ・動画②をみせる 動画②・・・(1)シビー先生の好きな物と関連している内容 (2)憧れの人物の挫折・失敗経験の内容 ・相手の好きなものが関連していると興味をもってくれる ・憧れの人物の良いところではなく、挫折・失敗の話も聴く人は興味・関心を持つ（レジリエンス） 	10	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導を丁寧に行い、英語の表現に悩んでいる生徒を支援する 動画②・・・気づいてほしい文章の字幕の色を変える ・表現や内容が参考になる文章をとりあげ全体で共有する
<p>2 自分で考える</p> <p>○ ポイントを参考に魅力が伝わる内容をマッピングに付け足す</p>	7	<ul style="list-style-type: none"> ・6次の授業で調べた内容を付け足すよう促す
<p>3 学び合う</p> <p>○ ペアで発表前にどのような順番で話すか1人で確認する</p> <p>① ペアを何度も変えながらマッピングor箇条書きを参考に繰り返し練習する</p> <p>どのような文の構成なら憧れの人物についての魅力が伝わるかな？</p> <p>② 上手な文章で伝えている人を全体で共有</p> <p>③ 上手な文をメモする→書き直す</p> <p>①～③を繰り返す</p>	2 15	<ul style="list-style-type: none"> ・あこがれの人物について相手に興味・関心を持ってもらえる内容になっているか考えて説明しようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】＜動画＞
<p>4 まとめる</p> <p>○動画を撮り、オクリンクプラスに動画＋魅力が伝わる文をまとめる</p>	5	
<p>My hero is Miyagi Hiroya. He is a baseball player who is the best pitcher inOrix Buffaloes. He is not as tall as other baseball players, but he can throw a fast ball. When he was i n elementary school, he couldn't buy his glove. So he made it by himself. I will never give up like hi m.</p>		
<p>5 次回の授業の確認</p> <p>○次の授業で「良いパフォーマンスは？」を全体で確認する</p>	3	

本時の授業の工夫点

- ・自分で考える場面の前にモデルを掲示し、表現を工夫しないと良さは伝わらないことを全体で確認する
- ・自分の憧れの人物を伝えるペア活動を何度も行い、良い表現があった場合は個人発表させ全体に共有する

板書計画

<シビーに興味・関心を持ってもらう内容にするには？>

Shibby looks bored. Why?

- ・ただ紹介しているだけ
- ・自分の好きなことしか言っていない

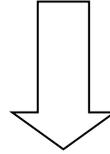


<改善点は？>

- ・その人のレジリエンス体験談
- ・シビー先生の好きな物に関連した内容

<使えそうな表現>

- ・上手な表現
- ・使いやすい表現
- ・難しい表現はみんなで考える



第48回東海北陸公立学校英語教育研究会 三重大会

2024年8月8日、9日 参加報告

金沢市立西南部中学校 木村 祐太

(1)記念講演

演題 「言語活動を核にした指導と評価の一体化の実現：現在までの成果と課題」

講師 関西大学外国語学部教授 今井 裕之 氏

言語活動を核として授業を進めていくためにどのようなことが大切かに関して講義があった。最初に、1960年代の言語活動の変遷について触れられ、その後現代の学習指導要領におけるおおまかな言語活動の定義について説明があった。

では、これらの言語活動を通して、どのように授業を進めていくか。今井氏は、授業内のルールの在り方、生徒の与えられた役割の重要性などについて考察することが大切であると強調された。

これらの役割は職員間の同僚問題の糸口にもなる。教科部会で盛んな議論が生まれるための視点についてもお話くださった。

最後は、生徒へのフィードバックの在り方として、リフレーミングが紹介された。

次に、報告者が参加した分科会について以下記載したい。

(2)第1分科会 「相手意識を育む「書く」「読む」活動」

発表者 桑名市立城南小学校 喜多 直恵 教諭

助言者 皇學館大学文学部准教授 川村 一代 氏

中学校での勤務経験がある、喜多教諭の現在の小学校での実践報告である。一般的には、相手意識というキーワードに対して、音声言語での活動に焦点が当たることが多い。喜多教諭は、文字言語での指導について焦点を当てていて、その部分からも実践報告のユニークさを感じることができる。

特に発表の中で特徴的であるのは、オンラインで台湾の同年代の生徒との書くことによるやり取りの機会を設定した部分である。オンラインでのアプリを用いて、自己開示し、相手からのメッセージを読むなどの活動を行った。

この活動を支える仕掛けとして、どの児童でも参加できるように、定型文章を用いて表現できるように工夫した点である。生徒のいきいきした様子が伝わる実践発表であった。

(3)最後に

次年度は石川大会ということもあり、これまで以上に運営面と実践の両面に関心高く参加することができた。多くの方の教材研究の一助になるような大会開催につなげたい。

加賀市

報告者：加賀市立錦城中学校
小川 健生

■ 令和6年度郡市研究テーマ

意欲をもって学びに向かう英語教育—令和の日本型学校教育を通して—

■ 年間の活動内容

月日（曜）	研修会・行事等の概要
5月10日（金）	第1回研修会 時間：15：30～16：40 場所：片山津中学校 ・組織会、今年度の研究テーマ決定 ・小中連携の指針決め（3年ごとに小学校でも研究授業を行う）
7月25日（木）	第2回研修会（郡市として県小中英研夏季研修会に参加）
11月2日（土）	第76回 南加賀地区中学校英語暗唱大会
11月7日（木）	第3回研修会 時間：13：40～16：40 場所：山中中学校 ・研究授業（山中中学校 徳田 祐也教諭）、整理会 単元：New Horizon1 Unit8 A Surprise Party ・8地区研究発表最終報告（片山津中学校 青木 健斗教諭） ・今年度の反省、来年度の計画、役員決め

■ 成果と課題

加賀市では研究主題を「意欲を持って学びに向かう英語教育—令和の日本型学校教育を通して—」とした。そしてこの研究主題に迫るために、加賀市の学校教育ビジョンである“Be the Player”とも関連した「子どもに委ねる授業」と子どもへの「動機付け」を意識して授業に取り組むこととした。

子どもに委ねる授業では、生徒が自分で必要な学習を選択できる環境を提供するレベル別のワークシート学習や、生徒が計画を立て、自らで進度を調整する自己調整学習、使用ツールや学習場所を生徒が目的に応じて選択できるような学びの最適化を実践してきた。成果として、子どもに委ねる授業を行っていく中で、教員の授業のデザインする力の向上につなげることができた。また、実際の生徒の声では「みんなと話し合っ活動ができた」「自分たちで計画を立て、それを実行するために協力する学習が好き」という主体的・協働的な学習に対しての肯定的な意見もみられた。

第3回研修会では山中中徳田教諭によるスピーチ作成型自由進捗学習の研究授業を参観し、整理会を行った。「専門学校の留学生に推しをスピーチする」というゴールに向けて意欲が低い子でも前向きに取り組んでおり、生徒への動機づけがなされていた。目的・場面・状況を設定し、相手意識や必然性、子どもが自分事として学習に向かうことができるように、研究授業の他にも市内の学校で台湾の学生との学校紹介をテーマとしたオンライン交流や、同程度の英語力のマレーシアの学生との交流が行われた。

課題としては自由進捗学習を行う上では準備の負担が大きいこと、場所や学習事項の自由度が高い授業で生徒の見取りきることが難しいという課題が見られた。来年度以降も子どもに委ねる授業を行う際に以上の課題を意識しながら取り組むことが求められる。

6 本時の学習（第 四次中 2時）

(1) ねらい 「写真や動画など」を用いて、「自分の推し」について、考えや気持ち、話し手として伝えたい順序や聞き手にわかりやすい展開や構成を考えて、それらをメモするなどして整理し、英語で簡単なスピーチをしている。

【思考・判断・表現】

(2) 準備 クロムブック、ワークシート、TV、アリス学園のパートナーのダンゴ、特技に関する写真や動画

(3) 展開

時	学習活動；番号 生徒の思考のながれ；波線四角	・指導上の留意点 評価規準【観点】(方法) ☆支援
導入 3分	<p>《つかむ》 Unit Goal (Unit 8) (8文以上) →2学期のゴール (詳しく10文以上)</p> <p>Let's talk about our heroes for Alice friends! ～「動画や写真など」を用いて、「推しの魅力」を、アリスパートナーに伝えよう～</p> <p>【Today's goal】</p> <p>Let's make a speech about our <u>heroes</u>! ～「押しの魅力」を PR!～</p> <p>1. Confirm unit goal and today' goal (1 m) 2. Pair talk about this topic. (2 m)</p>	<p>・「アリスパートナー」を場面設定に生かし、相手意識を生む。</p> <p>☆「推しの動画や写真など」を用いて、その魅力を発信させる。</p> <p>・自分の知識で自力解決。 (あえて困難さを実感させる。)</p>
展開 15分	<p>【The goal of Free Study】 ① 8文以上 ②自分情報 ③「動画・写真」の使用</p> <p>《考える》(15 m)</p> <p>3. Free study time (自分たちで必要な活動内容と活動形態を選ぶ) (15m)</p> <p>・Dango (Students think about their speech outlines just like mind mapping.)</p> <p>*「パートナーのダンゴ」を基に、伝える内容を整理する。</p> <p>・スラスラ英会話やスピーチ・スライド、ユーチューブや文法ビデオ (CR 上) を用いて、英文構想を作る。</p> <p>・レコーディング、ライティング。</p> <p>・スピーチ・スライドの作成。</p> <p>・友達で教えあう。</p> <p><全体共通></p> <p>4. Pair talk (3 m)</p> <p>《深める》</p> <p>5. Listen to some model speeches and share. (5m)</p>	<p>・「ダンゴの内容」を「キャンバ」で共有する。(共有TVに表示、随時更新)</p> <p>☆同じ内容(スポーツ、音楽、食べ物など)の生徒と相談してもよいと伝える。</p> <p>・ペアトークが終わった人は、内容面での「アドバイス」をするよう促す</p> <p><No.5 の中間評価で予想される発言></p> <p>・現在進行形の正確さや副詞句、接続詞(so, and, but)などの表現が効果的</p> <p>・質問で興味を引いている</p> <p>*ペアトーク終了後、相互評価や「アドバイス」を促す。</p> <p>・中間評価の際に、「生徒の伝えたかった</p>

6. Pair Talk (2 m)
7. ListentosomemodelSpeechesandshare.(2m)

<予想されるペア同士のアドバイス>

- ・ここは動詞の後ろに ing いるよ。be 動詞、抜けてるよ。
- ・ここに so 入れたほうが、内容が伝わりやすい。
- ・質問すると相手も楽しめるし、より詳しく情報が伝わるよ。
- ・この英文を先にしたほうが分かりやすいよ。
- ・具体例を入れたらどう？

事」や「いい表現！と思った語句」を板書に位置付ける。子供の言葉を大切に。

- ・内容面に関して、突っ込んだ質問をすることで、スピーチ内容が深まるようにする(ALT and JTE)。

☆学習に困難を抱えている生徒には、「QA シート」や「ALT のスクリプト」を渡す。(本人に適合した「紹介の仕方」が掲載されている)

評価

「アリスのパートナー」について、考えや気持ち、話し手として伝えたい順序や聞き手にわかりやすい展開や構成を考えて、それらをメモするなどして整理し、英語で簡単なスピーチをしている。

【思考・判断・表現】 (行動観察)

B 基準：一つの話題で、内容を工夫した、関連のある内容の英文を8文以上の英文で伝えることができる。

《まとめる》

8. Write down the speech. (6)
9. Reflection time. (4)

- ・話したことを書いて、理解度の確認。
- ・自分の言葉で、「振り返り」を記入。

You like movies, right? This is my hero, Godzilla. He is from Japan. He is a Japanese monster. His friend is Radon.

He likes fish very much. He eats everything. Epecially, he eats fish every day.

Look at this picture. He is eating a lot of fish. And, look at this movie. He is walking and swimming. Now, he is firing the heat ray. This is so cool. I like him. So, I want to see

him in the theater someday.

Do you like monsters? Let's watch Godzilla movies together. 【19文 90語】

本時の目標は8文以上

【内容面】

複数の話題をランダムに伝えるのではなく、自分の習慣や好みなどについて情報を深めながら伝えることで、アリス学園のパートナーの魅力をあますことなく伝達することができた。

【言語面】

三単現の s や want to, so, but などを用いることで、詳しくパートナーの情報を伝えることができた。しかし、動詞の s を忘れてたり、主語の I, you 等を省いたりするので、その癖を直したい。

小松市

報告者：小松市立松東みどり学園
大浦 萌

- 令和6年度郡市研究テーマ
豊かな英語のやり取りにあふれた教室 ～小中連携を大切に～

- 年間の活動内容

月日（曜）	研修会・行事等の概要
5月7日（火）	第1回研修会 ・組織づくりと今年度の研修計画について
6月5日（水）	第2回研修会 ・研究授業（国府中学校 田中 志仁教諭） ・授業整理会 ・8地区研究発表会に向けて
7月24日（水）	第3回研修会 ・講演：「豊かな英語のやり取りが行われる教室～小中連携を重視して～」 富山国際大学 吉崎 理香教授 ・8地区研究発表会に向けて ・校区別情報交換
10月23日（水）	第4回研修会 ・研究授業（芦城小学校 谷口 修平教諭） ・授業整理会 ・8地区研究発表会に向けて
1月15日（水）	第5回研修会 ・今年度の反省と来年度の計画 ・東海北陸大会の発表に向けて（矢田野小学校 坂上 智子教諭） ・小中別研修会 小学校：実践交流 中学校：三省堂の方による教科書説明会

- 成果と課題

テーマに基づき、研究授業の授業整理会や校区別情報交換などを通して意見交流を行うことができた。特に、校区別に ICT 活用ややり取りの場面設定の工夫などの研究テーマを設定し、研修会の中で小中連携を意識した意見交流を行った。異校種の先生方と話し合える機会が少ないため、そういった機会があるのは良かったが、小中連携の浸透が難しいといった意見も出た。

富山国際大学の吉崎教授による講演では、普段の授業で英語のやり取りを取り入れるための留意点を示していただいた。

来年度は ICT の活用方法や実践交流など、ニーズに合わせた研修を行い、小中連携を意識できるよう、取り組みを続けていく。

●小松市教育研究会英語部会 第2回研修会 学習指導案

中学校第2学年 英語科学習指導案 令和6年6月5日(水) 第5限 指導者 田中 志仁, Jayde Seymour

単元名 Lesson2 My Dream (NEW CROWN English Series2)

(1) 本時のねらい (目標を達成した生徒の具体的な姿)

職場体験活動での体験場所を校長先生に提案するために、職場体験に行きたい場所について内容を整理して話することができる。【思考力,判断力,表現力等】

(2) 本時の展開

配時	学 習 活 動	◇: 指導上の留意点 ◆: 評価【観点 / 方法】 ○: 支援
つかむ (7)	<ul style="list-style-type: none"> 曜日や日付,本時の流れ等を確認する。 校長先生からのメッセージ動画を見る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Good afternoon, 2年生. How are you? You will have work experiences in November. <u>I want to change the places for you. So please tell me your favorite places. And what do you want to do there?</u> I can't say 100% OK, but I want to listen to your ideas. Next time, I will join your English class. Bye.</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 学習課題を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇生徒が互いに英語で質問し合うことで,英語を話しやすい雰囲気を作る。 ◇校長先生の話聞き,動画の中で問われている内容について生徒とやり取りする。 ◇パフォーマンステストを通してベスト3を決めることを伝え,目的や状況を共有する。 ◇学習課題のキーワードを生徒から引き出す。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>【学習課題】 <u>校長先生に提案するために, 職場体験に行きたい場所</u>について話そう!</p> </div>		
考える (13)	<ul style="list-style-type: none"> 個人で考える【think①】 ①考えをマッピングする ②考えたことを1人で話す 友達と考えを伝え合う。【chat①】 	<ul style="list-style-type: none"> ◇発表ノートを用いて,キーワードでマッピングを行い,事実や考えを整理させる。 ○数分後,グループ機能を用いることで,友達のマッピングを参考にできるようにする。 ◇ペアや近くにいる友達と,マッピングした内容を伝え合わせる。
深める (25)	<ul style="list-style-type: none"> モデル文を共有する。【share①】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Mr. Tanaka's Model (1回目) I want to work at Hachiban Ramen. I want to cook ramen well. I cook at home. I can レジ打ち. Try hard. I want to take orders.</p> </div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Questions from ALT ①Why do you want to work there? ②What will you do to cook ramen well? ③How will レジ打ち be? ④What do you think of the working?</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ◇JTEは職場体験に行きたい場所を発表する。 ◇ALTがいくつか内容に関する質問を投げかけることで,内容が十分でないことに気づかせる。 ◇質問された内容についてJTEがマッピングに書き込むことで,どんな情報が必要かを視覚的に分かるようにする。 ◇追加・修正したマッピングを見ながらJTEがもう一度発表することで,生徒が内容面の変化に気づけるようにする。 ◇JTEのモデルが変化した内容について生徒とやり取りする。



	<p>Mr. Tanaka's Model (2回目)</p> <p>I want to work at Hachiban Ramen.</p> <p>I like ramen very much.</p> <p>My dream is to have a ramen restaurant.</p> <p>So I want to cook ramen well.</p> <p>I will look at 店員さん a lot.</p> <p>I can also do レジ打ち.</p> <p>I think it will be difficult, but I will try hard.</p> <p>It will be fun and useful.</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p><校長先生が納得するためには？> <u>働きたい理由</u>, <u>頑張りたいこと</u>, <u>感想や気持ち</u>, <u>将来の夢</u>, <u>興味</u>など</p> </div>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人で再度考える 【think②】 <ul style="list-style-type: none"> ① マッピングを見直す。 ② 考えたことを1人で話す。 ・ 友達と考えを伝え合う。【chat②】 	<p>◇より相手に伝わるマッピングになっているかを考えさせる。(体験したいことの羅列になっていないか)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>【努力を要する状況 (C) の生徒への具体的な手立て】</p> <p>○生徒の考えをもとに、足りない情報を補足できるように質問して気づかせる。(C→B)</p> </div> <p>○すでにマッピングが充実している生徒には、接続詞や副詞の活用したり、校長先生に聞きたいことを考えたりさせる。(B→A)</p> <p>◇ペアで伝え合う前に、1人で呟く時間を設定する。</p> <p>◇友達を入れ替えて、考えを伝え合わせる。</p> <p>○ALTは机間指導をし、十分伝えることができている生徒に質問する。(B→A)</p> <p>◇数名の生徒に発表させる。</p> <p>◇手本となる生徒の発表ノートモニターに映す。</p> <p>◇内容面の指導を中心に行う。</p> <p>◇個人で録音させる。</p> <p>◇日本語混じりになってもよいことを伝える。</p> <p>◆職場体験活動での体験場所を校長先生に提案するために、職場体験に行きたい場所について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて、話している。【思考・判断・表現/観察・録音】</p> <p>◆職場体験活動での体験場所を校長先生に提案するために、職場体験に行きたい場所について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて、話そうとしている。【主体的に学習に取り組む態度/観察・単元マップ】</p>
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>I want to work at Komatsu Station.</p> <p>Because I like trains very much.</p> <p>I can see trains there.</p> <p>I want to sell tickets.</p> <p>I think it is difficult.</p> <p>I will talk with many people.</p> <p>It will be fun.</p> </div>		
<p>振り返る(5)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の内容を振り返る。 	<p>◇振り返りの視点を示し、単元マップを記入させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> ① 最初と最後で自分が変化したこと ② 次回再度取り組むときに気を付けること </div> <p>◇単元マップに記入した内容を全体で共有し、本時を通してできるようになったことを確認する。</p>

●小松市教育研究会英語部会 第4回研修会 学習指導案

小学校第3学年 英語科学習指導案 令和6年10月23日(水) 第3限 指導者 谷口 修平, 藤本 ひさよ

単元名 Unit6 ALPHABET (Let's Try! 1)

(1) 本時のねらい (目標を達成した生徒の具体的な姿)

相手のことを知るために、自分の姓名の頭文字を伝え合う。【思考・判断・表現力等】

相手に伝わるように工夫しながら、自分の姓名の頭文字を伝えようとする。【学びに向かう力、人間性等】

(2) 本時の展開

時間	学習活動と予想される児童の反応	* 指導上の工夫や留意点 ○か・ 評価 (方法) ● ねらいに到達させるための手立て
5 5	<p>1. Greeting あいさつをし、気分を尋ね、歌を歌う。</p> <p>2. Target (small talk) どんなことを話していたかを聞き、課題をつかませる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>T : Hello. ES : Hello. T : I'm Taniguchi Shuhei. T and S. ES: I'm Fujimoto Hisayo. F and H. T : Thank you. Good bye. ES : Thank you. Good bye.</p> </div> <p>・二人で自分の名前のイニシャルを聞き合っていた。 ・相手のイニシャルを表に書いていた。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;"> <p>〈イニシャルクイズをするためにクラスのイニシャル表を作ろう〉</p> </div>	<p>*ジェスチャーとリアクションを意識して、歌の活動を行わせる。</p> <p>今回、使う表現とその意味を押さえ、今回使う英語を意識させる。</p> <p>*学活で行うイニシャルクイズのために、考えるヒントになる表を作ることを押さえる。</p>
10 20 5	<p>3. Review アルファベットの言い方や形を歌やカードで復習する。</p> <p>4. Activity イニシャル表を作るために友達とイニシャル紹介を行う。</p> <p>A : Hello. B : Hello. A : I'm Yuki Koko. Y and K. B : I'm Kita Sana. K and S. A : Thank you. Good bye. B : Thank you. Good bye.</p> <p>一度、困ったことや相手に伝わりやすい言い方を確認し、練習し、もう一度イニシャル紹介を行う。</p> <p>5. Reflection 振り返りをし、挨拶をする。</p> <p>・友達のイニシャル表を作ることが出来てよかった。 ・英語で友達に自分のイニシャルを伝えることができた。</p>	<p>●歌で、アルファベットの言い方に慣れる。 ●アルファベットのカードを見て、英語で言わせる。不安なところを聞き、何度も練習する。</p> <p>○相手のことを知るために、自分の姓名の頭文字を伝え合っている。(活動観察・振り返りシート記述点検)【思考・判断・表現】</p> <p>・「I'm」を使っているかや話すスピードを確認する。</p> <p>○相手に伝わるように工夫しながら、自分の姓名の頭文字を伝えようとする。(活動観察)【主体的に学習に取り組む態度】</p>

能美郡市

報告者：能美市立根上中学校
池田 祥子

■ 令和6年度郡市研究テーマ

「豊富な英語のやり取りにあふれた教室」

■ 年間の活動内容

月 日 (曜)	研修会・行事等の概要
4月24日 (水)	・組織づくり ・研究テーマの決定「豊富な英語のやり取りにあふれた教室」 ・年間計画の決定 ・情報交流
8月7日 (水)	・西野指導主事を招聘しての学習会 「ねらいを達成するための生徒主体の授業づくり ～ICTの活用を通して～」
11月13日 (水)	・研究授業 寺井中学校 伊藤美月 教諭 ・授業整理会 ・小中分科会

■ 成果と課題

< 成果 >

- ・児童・生徒の主体的な学びにつなげるために、ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる授業展開について研修を行うことができた。
- ・指導主事を招聘しての研修会を通して、新たなアプリを活用しての英作文指導についてや、語彙指導についての新たな手法を学ぶことができた。
- ・研究授業の参観では、クロムブックをどのように活用しているかという点も含め、ねらいに迫る授業展開の工夫について有意義な話し合いを行うことができた。
- ・研究授業では、生徒が実際の学校生活を具体的にイメージしながら考えることができる工夫があり、授業を通して、生徒の英語の発話量が多く、達成感を感じることができた生徒の姿を見ることができた。
- ・実践交流では、小中分かれて情報交流を行い、より実践につなげるための工夫について話合うことができた。

< 課題 >

- ・書く指導において、生徒の作文をいかにフィードバックすることが技能を向上させていくために大切であるか、検討する必要がある。
- ・「読む活動について」や「ALTとのT・Tに関する研修」について、より学びを深めていきたい。
- ・来年度の教科書改訂に伴い、さらに小中連携を深め、より児童・生徒の主体的な学びにつながる授業づくりについて、研鑽を積みたい。

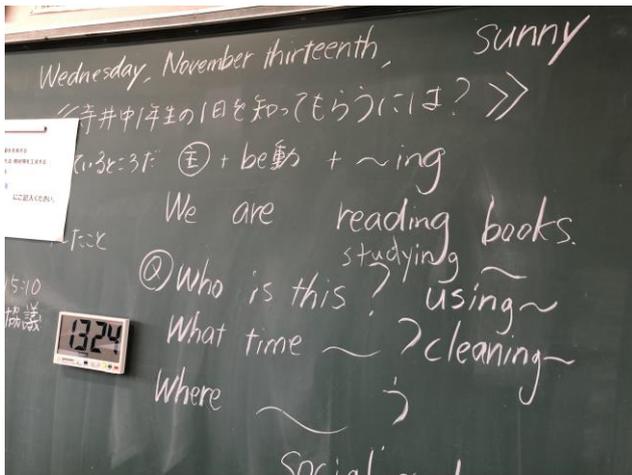
■ 研究授業(11/13 寺井中学校 伊藤教諭)より

【本時のねらい】

現在進行形の理解をもとに、寺井中学校の学校生活について紹介する英文を作り、写真を活用しながらレポートをする。

【ICT 活用のポイント】

スライドの写真の中から、生徒が自分で紹介したい場面を選び、その紹介文をまとめ、共有する。



【授業整理会 参観者より】

- 前時の復習では、生徒の意欲につながるグループ別クイズが行われ、生徒が自然と英語の授業に入り込んでいた。
- 授業全体を通して、ALT との連携が上手くできており、生徒の英語の発話量が大変多かった。また、ペアでの活動や Q&A への流れがスムーズであり、日頃からペアトークを取り入れている成果が感じられた。
- 単元を貫くゴールの姿が明確であり、特に単元マップを活用しての振り返り、確認が行われていた。
- 学校生活の写真を複数準備することで、生徒の自己決定の場を設けていた。
- 活動の最後に生徒がお互いに Thank you. See you!とあいさつをしており、温かい人間関係づくりにつながっていた。
- 4文以上の英作文というハードルを示すだけではなく、英語での質問を加えたり、プラスの情報を付け足したりすることで上級レベルになるという明確な目標を提示していた。
- △ 生徒によっては、課題設定が簡単すぎてしまう可能性がある一方で、生徒自身で学校生活の場面を自由に考える選択肢を入れても良かった。
- △ ペア活動を行った後、特に良かった部分を具体的に焦点化するためにも、いくつかのペアで全体発表を行った方が良かった。

☆ 研究授業での3つの視点 ☆

- ① 目標を達成した生徒の姿を共有する
- ② 課題解決に向けた指導方法・教材等を工夫する
- ③ 視点を明確にして考えを表現させる



白山市

報告者：白山市立松任中学校
前川 麻耶

■ 令和6年度郡市研究テーマ

『外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力の育成』

～小・中学校の相互理解と連携の推進を目指して～

■ 年間の活動内容

月日（曜）	研修会・行事等の概要
4月24日（水）	白学研組織会 時 間：15：50～16：40 場 所：白山市立北星中学校 内 容：研究主題、研究の進め方の確認等 参加者：31名
6月 5日（水）	第1回研修会 時 間：15：30～16：40 場 所：白山市立北星中学校 内 容：講義「小中連携～子供主体の授業を通して～」 白山市教育委員会 手取屋 直枝 主任指導主事 参加者：38名
8月 2日（金）	第2回研修会 指導案検討会 時 間：13：30～15：00 場 所：白山市立北星中学校 内 容：指導案検討（グループ協議と全体共有） 指導助言 白山市教育委員会 手取屋 直枝 主任指導主事 参加者：36名
9月26日（木）	第3回研修会 研究授業 時 間：14：25～16：45 場 所：白山市立松陽小学校 内 容：高田教諭による研究授業、授業整理会 指導助言 白山市教育委員会 手取屋 直枝 主任指導主事 参加者：37名

■ 成果と課題

<成果>

第1回研修会では、校区内の中学校と小学校でお互いの CAN-DO リスト交換をし、それぞれの学習到達目標を共有できた。全3回の研修会と研究授業を通し、子供主体の授業とねらい達成に向けた単元デザインについて、小中の教員が校種を超えて意見を交わし合うことで理解を深めることができた。

<課題>

市内のさらなる小中連携に向けて、例えば、「自己紹介」や「マイヒーロー紹介」など小中で同じ題材を扱う単元のゴールの姿について学びの連続性を意識しながら協議するなど、今後は小中連携したカリキュラムや学習到達目標などの設定が課題である。

本時の学習 6/9 ねらい 自分の行きたい国とそこでできることについて、英語でのアドバイス聞き、相手の好みに合わせて紹介する内容を考えることができる。

G1 情報収集 (一斉)

クラウドを活用した環境づくり
 教師の学び方の指導 (加かけ)

G1 試行錯誤 (個別)

- ①追加することを決めデジタル付箋に書き加える
- ②新たに必要になった情報について調べる

クラウドのお土産
 きれいな風景
 ビーチ
 ダイビング
 サブリナの住む家

スクリーンショットに発表内容をデジタル付箋で整理

どんなことを付け足したのか、いいか悪いか、思い浮かべている児童にイメージを持たせるために、やり取りしながらポイントを確認したり、内容を膨らませたりする。【C→B】

T 課題をもち、計画を立てる (一斉)

・前時に整理したデジタル付箋をもとにペアで行きたい国について紹介してあげる

○最後はだれを誘うの？

〈サブリナ先生の「行きたい」を引き出す紹介には?〉

HRTとALTのやり取りを聞く

HRT
 I want to go to Malta. You can eat rabbit stew. You can go to the beach. It's beautiful. You can see beautiful towns. Let's go to Malta! Thank you.

ALT
 Nice! Your presentation is good, but you will give a presentation to Sabrina. Do you remember your goal? Let's make a better presentation for Sabrina! OK. I have some advice.

Do you have any advice? Advice please!

児童を巻き込みながら情報を追加、整理する様子を見せる。実際にデジタル付箋に書き加えながらやり取りする。

ALT

① I want more food. Sabrina will go on a trip for a few days. 3 days, 4 days, 5 days... maybe more days. Rabbit stew is a good idea, but Sabrina wants to know more foods. She likes sweets very much.

② The beach is nice idea, but what can you do in the beautiful sea? You can swim? You can see fish? You can enjoy diving? What activities can you do?

③ Sabrina likes shopping. She wants to buy some special items in your country? It's looks much better. Fantastic!

M2 ふり返り (個別)

・最初はビーチに行けることだけを紹介していたけど、セバスチャン先生はアトパイヤをももらって、そこでダイビングができることを追加した。前よりサブリナに行きたいと思うようになった。それを紹介しよう。お土産がいろいろあってそれを紹介しようか迷ったけど、友達に聞いたら、「日本ではめずらしいものにしたらい」と言われて、サボンジュヤムにした。その国だけのものを選んで、その国の特別感が出るものを選んで、サブリナは甘い物が好きだから、ジェラートを紹介することにした。相手の好みに合わせるのが大事だと気づいた。

どんなことを追加した? それはどうして?

ペアに、最初と比べてよくなったところを伝えよう!

M1 解釈 (個別)

- ①追加したデジタル付箋をもとにペアでもう一度紹介する
- ②録音して提出する

録音したものをスクリーンショットで提出させる。

良いふり返りを表示して共有・拡散

G2 整理・分析 (個別)

<前時>

I want to go to Malta. You can eat rabbit stew. You can go to the beach. It's beautiful. Let's go to Malta!

デジタル付箋のスクリーンショット

・サブリナは甘い物が好きだから、ジェラートを追加しよう。
 ・マルタでしか買えないお土産も調べて入れよう。

<本時>

I want to go to Malta. You can eat rabbit stew. You can go to the beach. It's beautiful. You can buy Sabonジュヤム. Let's go to Malta!

デジタル付箋のスクリーンショット

どうしてそれを追加したの?

野々市市

報告者：野々市市立野々市中学校

竹田 さくら

■ 令和6年度郡市研究テーマ

小学校外国語科：・外国語活動を通して、積極的にコミュニケーションをはかろうとする児童の育成
中学校：対話的な活動を通じたコミュニケーション能力の育成

小学校と中学校の効果的な接続を意識し、“積極的な交流”から“対話的な活動”をキーワードに、生徒たちのコミュニケーション能力の育成をめざす。

■ 年間の活動内容

月日（曜）	研修会・行事等の概要
4月19日（金）	研究部会① 内容：各部組織会および年間計画案決定
6月5日（水）	研究部会②（研究授業等） 内容：Can Do リストや実践事例を持ち寄り、情報交換
8月19日（月）	研究部会③ なし
10月16日（水）	研究部会④ 研究授業 野々市小学校の片野教諭による研究授業、その後授業整理会
1月17日（水）	研究部会⑤ 全学校共有ドライブでデータ共有、C4th でやりとり

■ 成果と課題

（1）成果

研究部会を通して、本年度のテーマを達成するための情報共有をし、小中連携した取り組みについても話し合うことができた。特に、小中で扱う共通する部分について、それぞれの生徒の実態に合わせた指導はどのようにして行われているのか、今後の課題は何かなどについて、お互いの目標を見据えて話し合うことができた。また ICT 機器などの視覚教材の情報なども共有できた。

（2）課題

中学校での話すこと、書くこと、読むこと、聞くことの4技能をどのようにして高めていくべきかはまだ課題が残る。今後も研究テーマを通して対話的な活動を通じたコミュニケーション能力の育成に力を入れていく。

野々市小学校 6年生 外国語科学習指導案

令和6年10月16日(水) 5限

指導者 JTE 片山 裕太 ALT Solomon Frimpong

1. 単元名 SDGsについて全校のみんなに興味をもってもらうために、レッドリストの動物の「今」について発表しよう。(NEW HORIZON Elementary 6 『 Save the animals 』)

2. 本時の学習 (第二次中3時)

(1) ねらい 自分の選んだレッドリストの動物の「今」につちえ、伝えたい内容を整理したり、伝え方を工夫したりしながら話すことができる。

(2) 学習過程

学習活動と児童の意識の流れ	時	指導(・)と評価 重点●
<p>1. 学習課題をつかむ。</p> <p>○Let's check final goal.</p> <ul style="list-style-type: none"> SDGsについて全校のみんなに興味をもってもらうために、レッドリストの動物の「今」について発表することがゴールだね。 今日は、グループで発表する動物を決めるために自分が選んだ動物について発表する時間だね。 <p><選んだ動物について伝えたいことを深めよう></p> <p>2. 班内での発表に向けて準備をする。</p> <p>○同じ動物を選んだグループの人と発表の練習をし合ったり、共通点のある動物を選んだ人と交流をしたりしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> まずは同じ動物を選んでいる友だちと話したいな。 自分の選んだ動物と、「森に住んでいる」という共通点のある友達のところへアドバイスをもらいに行こう。 <p>○よい児童の発表をモデルとして中間評価を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><モデルとしたい児童の発表の例></p> <p>Let's save the polar bears. Polar bears live near the sea.</p> <p>I like polar bear, but they are in danger. Global warming is a big problem. We can use eco-friendly bags. It's in the SDGs No.13.</p> </div>	<p>5</p> <p>25</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●つけたい力を確認して見通しをもって取り組めるようにするために単元のゴールや、ループリックと照らし合わせた自身の現状を確認させる。【重1】 ●学び方を選択しながらより効果的に学ぶことができるようにするために交流場面で誰と関わるとよいかについて視点を与える。【重2】 <p>・中間評価を通して、相手に応じた発表ができていない児童を価値づけることで、良いモデルを全体に広める。</p> <p>【思】自分の選んだレッドリストの動物の「今」について、伝えたい内容を整理したり、伝え方を工夫したりしながら話すことができる。</p> <p><行動観察・ふり返り></p>
<p>3. 選んだ動物について、班内で紹介をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>友達との交流を通して伝える内容を見直したり、表現を増やしたりして内容を深めることができた。</p> </div> <p>4. 振り返りをする。</p> <p>○今日の達成率は90%です。友達との交流を通して伝える内容を見直したり、表現を増やしたりして内容を深めることができたからです。次のグループでの発表では、今日学んだことを活かしたいです。</p>	<p>10</p> <p>5</p>	<p>※JTE・ALTそれぞれ分かれて机間指導を行い、質問や言い間違い等があった場合はその場で指導する。必要があれば、中間評価の際に取り上げて共有する。(C→B)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴールとなる言語活動、次時の意欲を高めさせるために、今日の達成率とその理由、次に向けてがんばりたいことを振り返らせる。

金沢市

報告者：金沢市立高尾台中学校
吉岡 恵梨

■ 令和6年度郡市研究テーマ

言語活動を通して、コミュニケーション能力を育成する授業づくり
～金沢型学習スタイルをベースに～

■ 年間の活動内容

月日(曜)	研修会・行事等の概要
5月31日(金)	発足会 ・部長挨拶 ・幹事長挨拶 ・研究テーマの確認 ・組織について ・英語スピーチコンテスト、研究授業輪番制の確認
6月21日(金)	研究授業 金沢市立西南部中学校 木村 祐太教諭(2年) Unit3 My Future Job
8月19日(月)	(研究委員会、スピーチコンテスト委員会のみ) (研究委員会)・秋の研究大会指導案検討会 ・8地区研究発表会について協議 (スピーチ)・10月のスピーチコンテストの運営について協議
10月5日(土)	第50回 金沢市英語スピーチコンテスト
11月22日(金)	県小中英研「秋の研究大会」 研究授業 金沢市立兼六中学校 西尾 正俊教諭(1年) Unit8 A SurpriseParty 田丸 聖汰教諭(3年) Unit5 A Legacy for Peace
1月17日(金)	講演会「次年度に向けての課題」 金沢市教育委員会 林 耕次主任指導主事 8地区研究発表会のプレゼンテーション発表 金沢市立浅野川中学校 安原 素子教諭

■ 成果と課題

今年度も多くの先生方に参加していただき、研究授業やスピーチコンテスト等多くの活動が無事に実施することができた。特に今年度は秋の研究大会が金沢市での実施ということで、夏休み中から指導案検討等の準備を進めてきた。そこでは単に指導案に対する意見交換だけではなく、各学校において、市のテーマに沿って日頃どのような授業をしているか、各先生方が何に重きを置いて指導をしているか等、活発な意見交流が行われたことが印象深い。授業の整理会においても、金沢市以外の先生方からも多くのご意見をいただき、授業者以外もたいへん勉強になる有意義な会となったことを嬉しく思う。

来年度も多くの先生方に参加していただけるよう、活動内容を工夫し、金沢市の先生方の実践を広げていきたい。

第 2 学 年 1 組 英 語 科 学 習 指 導 案

令和 6 年 6 月 2 1 日 (金) 第 6 限

場 所 2 年 1 組 教 室

指 導 者 木 村 祐 太

1. 単元 (題材) 名 Unit 3 My Future Job

2. 本時の学習 (第六次中 1 時)

(1) ねらい

ロボットやAI、それに関わる職業、登場人物の職場体験に関して読んだことについて、事実や自分の考え、気持ちなどを、既習表現を用いて伝えることができる。 [知識・技能]

(2) 学習過程

学習活動、主な発問等 (○) 予想される生徒の思考 (・)	時	指導 (○) と評価 (【 】) C→Bの手立て (※)
<p>1. Warm-up ○Small Talk 総合のインターンに参加する会社について対話する。</p> <p>2. 教科書本文の学習 ○Oral Introduction 題材について教師の英語で内容を理解する。 <朝美の職場体験で学んだことについて説明できるようにしよう。> ○与えられた発問に対する答えを本文から読み取る。 ○Model Reading ○Explanation Oral introductionで確認しきれなかった箇所を日本語で確認する。 ○Reading Aloud</p> <p>3. Production活動 ○Presentation ワークシートを用いて本文内容について説明する</p> <p>4. 本時のまとめをする ○生徒を指名し、全体の前で発表してもらおう。 まとめ Asami and her friends went to a translation company on Career Day. She knew that English is important.</p> <p>5. ライティング ○穴あきシートを使って、教科書本文を復元しながら書く。</p>	<p>5</p> <p>10</p> <p>10</p> <p>15</p> <p>5</p> <p>5</p>	<p>○既習表現を用いて対話する。教師と生徒のやりとりから、生徒と生徒のやりとりに移行する。</p> <p>○英語のまま理解できるように、イラストや資料を活用する。</p> <p>○本の裏表紙に書かれていたとされるメッセージを読み取る。</p> <p>○音声に気をつけながら、適切な手順で音読を行う。特にスピーチにつなげるために繰り返し練習を行う。</p> <p>○教師がモデルを示す。 【思】②【主】①〈発表・ライティング〉 ロボットやAI、それに関わる職業、登場人物の職場体験に関して、読んだことについて、事実や自分の考え、気持ちなどを、既習表現を用いて伝え合う技能を身に付けている。 ※(C→B) 英文の内容を再度確認し考えさせる。 ○復元を難しく感じている生徒にはヒントを与える。</p>

第 1 学年 7 組 英語科学習指導案

令和 6 年 1 1 月 2 2 日 (金) 6 限

場 所 1 年 7 組教室

指導者 教諭 西尾 正俊

1. 単元名 Unit8 A Surprise Party NEW HORIZON English Course1 東京書籍

2. 本時の学習

(1) ねらい

・相手の都合や今していることを確認し、目的に応じて誘うことができる。

【思考力・判断力・表現力等】

(2) 学習過程

学習活動と生徒の主な思考の流れ	時間	支援（・）と評価（○）
<p>1 導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶を行う。 ・オクリンクプラスのカードをみて、やり取りを行う。 <p>What is the boy doing? He is Masatoshi. He is playing volleyball in the gym.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動画を見て、ALT がいま何をしているのかななどを教師と確認する。 <p>Look! What is Shibby doing? She is drinking coffee on the sofa. Shibby is free now. What will you do? Why don't we have a nice lunch break with your friends and Shibby?</p> <p>2 本時の課題をつかむ</p>	<p>7</p> <p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に作成したカードを取り上げ、既習事項と今回の学習をつなげる。 ・ペアの英語を確認し、英語で表現する助けとする。 ・状況を明確にし、目的意識を持たせる。
<p><昼休みの活動にどう誘えば、シビー先生と仲良くなれるだろう></p>		
<p>シビー先生と昼休みに何をしようかな。 シビー先生が好きなことはサッカーだったな。 どこでだれが何をしているかはカードに書いてあるぞ。</p> <p>3 話す活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カードを提示し、ペアで生徒役、ALT 役に分かれ、ALT を昼休みの活動に誘う対話を即興で行う。 <p>生徒役 Masa is in the gym. Can you come with me? ALT 役 What's he doing there? 生徒役 He is playing volleyball there.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対話のフィードバックを行い、チェックポイントを確認する。 <p>① 場所を伝えているか。 ② していることを伝えているか。 ③ 相手に応じて誘うことができたか。</p> <p>4 ペアワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらに動画を見て ALT の状態を把握する。 	<p>7</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の流れを明示し、見通しを持たせる。 ・生徒の様子を見取り、今回のポイントを全体で共有する。 ・①場所と②していることを伝える表現に注目させ、ペアや個人でエラーチェックができるようにさせる。 ・動画を用意し、相手の状態が視覚的にも分かるようにする。

<p>”I’m full.”と言っていたから、体育館で運動するのはやめておいた方がいいかも</p> <ul style="list-style-type: none"> ・状態に合わせて誘う内容を考え、カードを見せながらペアで役に分かれ対話を行う。 ・列ごとに移動して5名程度の級友と対話する。 <p>5 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オクリンクプラスに、今回行った対話を一つ書き、みんなのボードに提出する。 	<p>13</p> <p>10</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カードを見て、表現を確認できるようにする。 ・生徒の良い姿を見つけ、全体に周知する。 <p>○状況を理解し、今していることを説明したり、相手がしていることをたずねたりしている。</p> <p>【思考・判断・表現】（オクリンク、活動）</p>
<p>生徒役 Hi, Shibby How are you? Masa is in the gym. Can you come with me? ALT 役 What’s he doing there? 生徒役 He is playing volleyball there. You like sports, right? Why don’t we play volleyball together? ALT 役: Sure!</p>		
<p>なのボードに提出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代表者がテレビの前で実演する。 ・良かった点について伝え合う。 <p>6 振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りを評価カードに書き込む。 ・教師による次時の予告を聞く。 	<p>7</p> <p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導で代表者候補を後押しする。 ・次回のインタビューテストへの自分のポイントを明確にさせる。

第 3 学年 3 組 英語科 学習指導案

令和6年11月22日(金) 5限

場 所 3年3組教室

指導者 教諭 田丸 聖汰

1. 単元名 Unit5 A Legacy for Peace(NEW HORIZON English Course3)

2. 本時のねらい

- ・シビー先生 (ALT) に自分の憧れの人物について、興味・関心を持ってもらえる内容を相手に話すことができる。【学びに向かう力、人間性等】

3. 学習過程

学習活動と生徒の思考の流れ (・)	時間	支援 (・) と評価 (※)
<p>1 本時の課題をつかむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復習 前時に作成したマッピングを見ながら自分の憧れの人物を2～3人ペアを変えて伝える ・動画①をみる 動画①・・・自分が好きな理由しか述べていない内容 ・Shibby looks bored. Why? と生徒に投げかける 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・良くないモデルを見せ、ありきたりの情報を伝えるだけではなく、自分の憧れの人物に対する魅力を伝えるために、内容を工夫することを意識させる
<p>〈 シビー先生に興味・関心を持ってもらう内容にするには? 〉</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ○ この内容を興味・関心を持ってもらうためには何が足りないのだろうか? ・自分の好きなことを伝えるだけでは相手は興味を示さない可能性もある ・動画②をみせる 動画②・・・(1)シビー先生の好きな物と関連している内容 (2)憧れの人物の挫折・失敗経験の内容 ・相手の好きなものが関連していると興味をもってくれる ・憧れの人物の良いところではなく、挫折・失敗の話も聴く人は興味・関心を持つ (レジリエンス) 	10	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導を丁寧に行い、英語の表現に悩んでいる生徒を支援する 動画②・・・気づいてほしい文章の字幕の色を変える ・表現や内容が参考になる文章をとりあげ全体で共有する
<p>2 自分で考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ポイントを参考に魅力が伝わる内容をマッピングに付け足す 	7	<ul style="list-style-type: none"> ・6次の授業で調べた内容を付け足すよう促す
<p>3 学び合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ペアで発表前にどのような順番で話すか1人で確認する ① ペアを何度も変えながらマッピングor箇条書きを参考に繰り返し練習する 	2 15	<ul style="list-style-type: none"> ・あこがれの人物について相手に興味・関心を持ってもらえる内容になっているか考

<p>どのような文の構成なら憧れの人物についての魅力が伝わるかな？</p> <p>② 上手な文章で伝えている人を全体で共有</p> <p>③ 上手な文をメモする→書き直す</p> <p style="padding-left: 40px;">①～③を繰り返す</p> <p>4 まとめ</p> <p>○動画を撮り、オクリンクプラスに動画+魅力が伝わる文をまとめる</p>	5	<p>えて説明しようとしている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 <動画></p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>My hero is Miyagi Hiroya.</p> <p>He is a baseball player who is the best pitcher in Orix Buffaloes. He is not as tall as other baseball players, but he can throw a fast ball. When he was in elementary school, he couldn't buy his glove. So he made it by himself. I will never give up like him.</p> </div> <p>5 次回の授業の確認</p> <p>○次の授業で「良いパフォーマンスは？」を全体で確認する</p>	3	

かほく郡市

報告者：津幡町立津幡中学校
澤 友香

■ 令和6年度郡市研究テーマ

英語によるコミュニケーション能力の育成

～「自分の考えや気持ちを伝える力」を高める指導法の工夫～

■ 年間の活動内容

月日（曜）	研修会・行事等の概要
4月19日（金）	組織会 研究主題の設定、年間計画の作成
8月28日（水）	指導案検討 8地区研究発表会にむけて協議
10月9日（水）	研究授業 授業者 中嶋 千香子 教諭（津幡南中学校）
1月15日（水）	研究のまとめと次年度にむけて

■ ○成果と▲課題

○目的・場面・状況の明確化

・授業において、「目的・場面・状況」を明確にし、生徒と共有することで、本物に近い場面の中で主体的に言語活動に取り組む生徒の姿が見られた。

○思考ツールの活用

・マッピング等の思考ツールを利用し、キーワードをもとにやりとりを行うことで、生徒は情報を整理し、自分の考えをより容易に伝えることができていた。

○教師による中間評価、個人・全体に対するフィードバック

・教師によるフィードバックを的確に行うことで生徒は相手意識を持ち、「目的・場面・状況」に適した表現内容を考えることができていた。その結果、言語面・内容面での深まりが見られた。

▲やりとりした内容を正確に書く技能の定着

・段階的にフィードバックを行い、書くことを習慣付ける。

▲獲得した言語材料の場面に応じた使用

・適切な表現を選択する機会を増やす。

・伝えたい内容にふさわしい表現を自分で決め、自分の言葉で表現できるように継続的に指導していく。

▲本物に近いコミュニケーションの場の設定の困難さ

・校内外での教科会議などを通じていろいろなアイデアを取り入れ、年間を見通した授業計画を作成していく。

■ 10月9日実施 研究授業の指導案

(1) 小単元名 Unit6 単元末

(2) 本時のねらい

ALTに学校の先生について説明するためにどのようなことを伝えたらよいか考え、相手にとって分かりやすいスピーチをすることができる。

(3) 準備・資料等

ワークシート、クロムブック

(4) 単元で「つきたい力」の定着のために

「新しく来た ALT に津幡南中学校の先生について知ってもらうために、何を伝えたらよいか考え、スピーチをする力」をつけるためには単元を通して段階的に話す活動を取り入れる必要がある。本時は単元末の前時にあたる時間であり、ALT へのスピーチに向けて内容面と言語面の両方において充実したものになるようにやりとりを多く取り入れ、よりよいスピーチを目指させる。

(5) 展開

時間 (分)	学 習 活 動	予想される生徒の 思考・反応	指導上の留意点（・） 評価規準【観点】（評価方法）◎
5	・ Small Talk What do you know about Anna?	A: What do you know about Anna? B: She likes listening to music. She listens to music every day.	
5	・ ALT の情報を確認し、本時の課題をつかむ。	She likes listening to music. She doesn't play sports.	・ 生徒とインタラクションしながら進めていく。 ・ 単元のゴールを確認する。
課題：アナ先生に南中の先生をより知ってもらうために紹介文をよりよくしよう！			
5	・ 先生についての追加情報を整理し、スピーチの準備をする。		・ 必要があれば、三人称単数現在形の復習をする。
10	・ グループでスピーチをし	A: This is Hirose Yuka. She is our Japanese	・ 机間巡視を行い、生徒から出

	<p>合う。聞いている人は必ず1つ質問をする。</p> <p>5</p> <ul style="list-style-type: none"> グループで聞かれたことやアドバイスを参考にもう一度スピーチを考え直す。 <p>7</p> <ul style="list-style-type: none"> 何人か前に出てスピーチをする。 <p>5</p> <ul style="list-style-type: none"> 前に出た人のスピーチを聞いてもう一度自分のスピーチを考え直す。 <p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> よりよくなったスピーチをペアの人に伝える。 	<p>teacher. She likes listening to music.</p> <p>B: I see. What music does she like?</p> <p>A: She likes J-POP, K-POP, and American music.</p> <p>Look at this picture. This is Hirose Yuka. She is our Japanese teacher. She likes listening to music. You can enjoy listening to music.</p> <p>最後に1文 You can～という表現を入れるといいな。</p>	<p>る質問をとりあげ、共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒から what などの疑問詞が出た場合は、他の疑問詞も確認し、質問の幅を広げる。 グループメンバーから質問されたことで答えが分からない場合は教師に質問させる。 どうしてその先生を選んだのかを問い返し、内容面を充実させる。 内容面を中心に、良い点を共有する。 <p>◎ALT に学校の先生について説明</p> <p>するためにどのようなことを伝えたらよいか考え、伝えることができる。【思考力・判断力・表現力等】(行動観察)</p>
<p>5</p> <ul style="list-style-type: none"> 振り返りを書く。 	<p>Look at this picture. This is Hirose Yuka. She is our Japanese teacher. She likes listening to music, and she likes J-POP, K-POP, and American music. You can enjoy listening to music with Ms. Hirose!</p>		

羽咋市

報告者：羽咋市立邑知中学校

杉森 優子

■ 令和6年度郡市研究テーマ

「豊富な英語のやりとりにあふれた教室～子供たちが自ら学ぶためのICT活用～」

■ 年間の活動内容

月 日	会 場	内 容
4. 10	瑞穂小学校	部会組織の決定・研究主題と推進計画の決定
6. 5	瑞穂小学校	情報交換（ICT活用実践事例）
9. 5	羽咋小学校	研究授業 6年生 Unit4 Let's go to the world 授業者 羽咋小学校 吉川 照代 講師
11. 20	瑞穂小学校	今年度の研究のまとめと反省

■ 成果と課題

【成果】

- ・6月の実践交流では、ICTを活用したコミュニケーション活動が各学校から多く紹介され、共有することができた。ICT活用の具体的な例（教師用・生徒用デジタル教科書の活用法、英語学習アプリ、発表動画撮影、英検対策アプリなど）が挙げられ、その後の実践に活かすことができた。
- ・9月の研究授業では、ICT（チャンツや歌、スライドのクイズ、リスニング、フォームアンケート等）を活用しながら生き生きとやりとりする児童の姿が見られた。相手意識・目的意識を持った課題の設定、単元ゴールまでの手順の示し方、授業の組み立て方（活動の流れ）、ALTの活用法等学ぶ点が非常に多かった。
- ・小学校は、本年度教科書が新しくなり、それに伴ってデジタル教科書もコンテンツが増え、子どもたちも家庭で使えるようになったことが大きかった。録音機能を使って、友達同士でお互いの英語を聞き合う中で、より良いものを目指し取り組むようになった。
- ・ICTの活用に関わるアイデア（ロイロ共有ノート、ドキュメントコメント、画面分割等）を知ることができた。
- ・各学校でのICT活用がかなり充実してきており、共有フォルダーの活用により年々使えるコンテンツが蓄積され、活用しやすくなってきている。

【課題】

- ・部員の減少等により、研究授業を実施する負担が年々大きくなってきているが、小中交流をさらに強化していくためにも、小中での交互の研究授業は、工夫しながら続けていくことが望ましい。
- ・生徒の要望も取り入れながら、学習に役立つアイテムを継続して開発していきたい。

【導入場面・見通す】



この単元最初の授業で、単元ゴールはALTの先生におすすめの国を紹介することです。

最初の10分間は、国の名前やその国で有名なものが入った歌やチャンツ、クイズなどを行いました。さまざまな国について興味を持ってもらうことが目的です。英語のシャワーをいっぱい浴びて、楽しそうにアウトプットしている姿が印象的でした。

【展開場面Ⅰ・考える】

JTEとALTのやり取りを聞いて、本時の課題「どこの国に行きたいか、たずね合おう」を確認。

T: Where do you want to go?

S: I want to go to Singapore!

T: Why?

S: Merlion!

T: Oh, you want to see Merlion!



【展開場面Ⅱ・学び合う】

友だちがどんな国に興味・関心があるのかインタビューし、聞いた結果をGoogleのフォームを使って報告しました。先生から「できるだけたくさん友達に聞いてね!」の声かけもあり、多くの友達に積極的にインタビューしていました。



【まとめ・たしかめる】

最後に今日話した英語をワークシートに書きました。会話では、I want to go to America.”のgo toのtoが抜けている生徒が多かったのですが、最後は先生のお手本を見て、みんな正しく書くことができました。

単元の学習計画である「てっぺんシート」を児童と共有することで、児童は目的意識をもって活動していました。さまざまな活動をテンポよく行う授業は楽しくて、45分間があつという間でした。吉川先生の授業のコツは「自分が楽しいと思う活動をする!」だそうです。学期初めの忙しい中、ありがとうございました!

羽咋郡

報告者：志賀町立富来中学校
塩谷 直輝

■ 令和6年度羽咋郡研究テーマ

英語で伝え合い、コミュニケーションを図ることができる実践的英語力の育成
～小中連携の充実を図る～

■ 年間の活動内容

月日（曜）	研修会・行事等の概要
4月18日（水） ※電話会議	部会組織、事業計画、及び予算の作成など 来年度羽咋郡教研英語部会と志賀町教研英語部会が
11月13日（水）	羽咋郡・志賀町統一研修会 ※令和7年度に両教研は合併します ①研究授業（1年生 Unit8：A surprise Party） 授業者：井上高志教諭、Chamitha De Alwis ②分科会 指導助言者 金沢大学教授 滝沢 雄一

■ 成果と課題

研究授業

- 【成果】
- ・単元計画がきちんと行われており、単元ゴールが生徒と共有されていた。
 - ・オクリンクを使って例やヒントを送る等、手立てが見られた。
 - ・最近習った表現を使用できている生徒を価値付けていた。
 - ・未習の単語などが必要な場面があっても、日本語を使わず、知っている範囲の英語や、カタカナ英語などを交えてでもできるだけ英語で話そう、という態度が感じられた。
 - ・研究授業を見ながら、「この題材であれば自分だったらどう展開するか」「各活動の時間配分をどうするか」など、自分の授業に置き換えて考えることができる有意義な内容だった。

- 【課題】
- ・本時のねらいは話すこと〔発表〕だったが、話している場面が少なかった。
 - ・即興で話すことが目的のため、文章を書かずに話すべきだった。
 - ・Small Talk で、現在進行形 Are you …ing ○○？を扱う際、Are you soccer？などの動詞の脱落や、Are you draw？など ing 形の脱落が見られた。

分科会

- ・相手／目的／場面／状況を明確にする →話す相手が変わると伝える内容が変わり、内容が変わると使用する言語材料も変わっていく。
- ・〔話すこと〕の領域・技能を育成したい時 →活動を何度も繰り返し、やりながら学ぶことで会話レベルを向上していくとよい。ペアを変えながら行うことも重要となる。
- ・**Key Sentence** を必然的に使用しなければならないような場面を工夫する →「○○の文法を使って…」とは言わない。対話内容の自由度が失われてしまう。
- ・“相手に分かるように伝える”ということを押さえる →難しい単語、自分が分からない単語を使用することがなくなる。伝えたい内容を全て伝えることは難しいと感じると、情報を選択・整理するようになる。

配時	学習内容・活動 ○主な発問・予想される生徒の反応 (探究タイム )	評価規準 (◎) [英語が苦手な生徒への手立て] 教師の指導・支援 (・) 学校研究との関連 (◇)	
		JTE	ALT
5	1 Small Talk ○ジェスチャーゲームをしよう。	・本時の学習につなげるために、ジェスチャーゲームをする。	・JTE と一緒にモデルを見せる。
5	2 課題の確認をする。【課題に出会う場】 ○自分の撮った写真や動画を紹介することができるかな？	・課題を共有するために、現段階でどれだけ話せるか即興で発表させる。	
レポーターになってクラスのみんなに○○について紹介しよう			
10	3 発表するためにスピーチを考える。 【考える場/発信する場】 ○スピーチをする準備をしましょう。 ・さっきは I am / Are you …ing ? を使ったけど、今回は○○ is …ing. だな。 ・「会話している」なら、○○ is talking. だな。 ・スピーチの練習をしてみよう。相手の目を見て言えるかな。	◇考えがまとまった生徒は、まだ考えが固まっていない生徒に教えられるように進捗状況が分かるようにする。 ・言い方に困っている生徒がいたら、既習を生かして言える簡単な表現を教える。	・言い方に困っている生徒がいたら、手掛かりの単語を聞いて、新しい表現を教える。 ・中間評価で発表した生徒の言い間違えた表現を recast (修正) する。
15	4 中間評価をする。 【考える場/発信する場】 ○発表の準備ができた人は、さらに表現を付け足してみましょ。発表する準備ができた生徒は動画を撮ってフォルダに入れましょ。 ・ Takashi is playing basketball. He is on the basketball team. He loves playing it. ・ Saki is talking with ○○ after lunch. She is good at dancing.	◎現在の状況を伝え合うために、人が今していることを、簡単な語句や文を用いて即興で話している。(行動観察・動画) [英語が苦手な生徒への手立て] ・生徒が言いたいのに言えない表現を教える。 ・中間評価での生徒の発表を参考にさせる。	・言い方に困っている生徒がいたら、既習を生かして言える簡単な表現を教える。
10	5 発表する。(ペア→全体) ・	◇撮り終わった動画は共有し、他の生徒が参考にできるようにする。 ・今までに学んだ表現を積極的に使っている生徒を価値づけし、既習を想起させる。	
It's 1 p.m. It's lunch break now. Many people enjoy talking in my class. My friend is Kota. He can dance and sing well. He likes sushi very much. It's 5 p.m. This is Takashi. He is on the judo team. He likes doing judo. Our class is really fun. My favorite place is my class.			
5	6 本時の振り返りをする。【まとめる場】 ○今日できたことは何ですか。また、どのような表現を使えるようになりましたか。 ・現在進行形を使って表すことができた。動詞の○○を覚えた。 ・付け足して、He can ～. や He likes ～. を使って詳しく紹介することができた。	・表現だけでなく、学び方についても価値づけをする。	

七尾市

報告者：七尾市立七尾中学校
丹後 育子

■ 令和6年度郡市研究テーマ

「自分の思いや考えを表現できる児童・生徒の育成」
～言語活動の充実を通して～

■ 年間の活動内容

月日（曜）	研修会・行事等の概要
4月17日（水）	○組織会
5月8日（水）	○研究授業のアイデア集め ○今の情報交換と公開授業の構想について
6月5日（水）	○講義「生徒に委ねる時間を創出するための単元デザインの工夫について」 講師：石川県教員総合研修センター 西野 真弓 指導主事
10月16日（水）	○研究授業に向けた事前検討会
11月13日（水）	○研究授業 内容：和田 千春教諭による研究授業、授業整理会 ○全体会 指導助言：中能登教育事務所 鷹合 敬代 指導主事
1月15日（水）	○今年度のまとめと次年度へ向けての課題

■ 成果と課題

今年度も小中連携による研究を進めることができた。6月に行われた研修会では、石川県教員総合研修センターより西野指導主事をお招きし、生徒にゆだねる時間を創出するための単元デザインの工夫を学ぶことができた。単元末ゴールを明確に設定し、それを達成するためには何を生徒にゆだねるべきなのか考えることが大切だ。ゴールのイメージを共有し、様々な手立てから生徒が自ら課題解決に向かうことができるように考え、研究を続けていく必要がある。

■ 研究授業の記録

1 期 日 令和6年11月13日（水）

指導者 和田 千春 教諭

会 場 七尾市立七尾東部中学校

2 単元名 Let's Write2 ホームステイのお礼状

（NEW HORIZON English Course2 東京書籍）

3 本時の学習

（1）ねらい

お世話になったタイのダオさんに、感謝の気持ちを伝える手紙を書く。

（2）指導上の工夫点

- ・実際に交流したことのある人物に手紙を書くことで必然性を生み出す。
- ・マッピングをもとに友だちに口頭で伝え、そして自分で一度書いてみることで、表現できなかったり、より表現したいことを見つけたりして、それらを英文にしていけるようにする。
- ・TTime（委ねる時間）で様々な問題解決のツールを準備し、自分の学習状況に応じて学習できるようにする。

4 研修会の記録

(1) 事前研修より

- ・委ねる時間の中でどれくらい教師のアシストを行うのか。
- ・よい例を板書に残し、それを参考にできるようにしてはどうか。
- ・中間指導を入れたほうがよいのではないか。
- ・物資をいただいたときの気持ちや感謝の思いを伝えられるとよい。

(2) 授業整理会より

【自己決定の場】

- ・自分の話したい、伝えたいという気持ちから書きたいという行動につながっていた。
- ・導入では情報を伝えすぎないいいことで生徒の対話がうまれ、個々の活動につながっていた。
- ・ツールシートを参考に取り組みでおり、生徒自身が書きたい内容に合わせて選んだり変更したり、安心して文章を書くことができていた。
- ・素早くマッピングに取り組み、どの表現を使うとよいのか考えることができていた。

【委ねる時間の設定】

- ・マッピングから文を書くことで見やすい、理解しやすいワークシートになっていた。
- ・板書の友だちの表現をみてよさを取り入れる姿が見られた。
- ・先生の声かけやアシストが生徒同士での問題解決につながっていた。
- ・どこかで中間交流・つぶやきで示すなど情報の共有ができるとよかった。
- ・感謝の気持ちと学校生活をどう過ごしているのかなどの、自分の思いをメインに時間を使えるとよかった。
- ・時制などの相互チェックも委ねる時間の中で確認していけるとよい。
- ・ツールシートが便利のため、多くの生徒が使用し、表現の中でオリジナリティーのある文章を書いている生徒が少なかった。

<中能登教育事務所 鷹合 敬代指導主事より>

- ・スモールトークでは小学校や今までの既習を再確認しながら本時とつながる内容で取り組んでいた。
- ・授業の序盤に生徒の文の言語面での指導を行うことができていた。
- ・日常に目を向け、生徒が実際に経験したことを題材にすることで、相手意識や目的意識をもつことができていた。
- ・マッピングから英語を記入し、**Thailand** を **your country** に直す等、わからない単語を自分の知っている知識に変換していた。
- ・マッピングより、情報活用能力を発揮し、情報を整理してどの順番で何を伝えようかなど思考を深める場面が見られた。
- ・自分たちで英文の正確性を確認し合い、エラーチェックをできるようにすることで、生徒の「自己修正力」を養う。
- ・委ねる時間の実況中継を行い、あの人のところへいってごらん等、生徒と生徒をつなぐアシストができるとよい。
- ・英文の正確性を生み出すために ChatGPT 等の生成AI の活用を行ったり、情報共有のためにオクリンクの活用をしたりするなどタブレット端末を有効に活用していく。

鹿島郡

報告者：中能登町立中能登中学校
坂本 華子

■ 令和6年度郡市研究テーマ

「友だちや先生とのやり取りを通して自己表現しようとする児童・生徒の育成」
～ICTの積極的な活用～

■ 年間の活動内容

月日（曜）	研修会・行事等の概要
4月17日（水）	・組織決定 ・研究主題決定 ・年間計画作成
9月25日（水）	・実践報告、情報交換 時間：15：00～16：30 場所：中能登中学校 内容：書くことの小中接続に関する研修（文科省/mextchannel 動画視聴による） CAN-DO リストの共有・協議
1月15日（水）	一年間の振り返り

■ 成果と課題

- おすすめの旅行先の魅力について伝え合う活動を通して、自分の考えを含めたおすすめの国の紹介を英語で伝えることができた。また紹介を動画で撮影し、活動の最後に振り返る時間を繰り返すことで自己の振り返りにつなげることができた。（小）
 - パフォーマンステストで実施した発表をお昼の放送に取り入れることで、クラス以外にも披露する機会となった。また、「行ってみたい国」がテーマの単元では掲示物を使って全校で参加できる授業作りを企画した。クラス内だけではない取組が生徒の英語の学習へのモチベーション向上につながった。（小）
 - 小学校6年生の授業では、最終単元の授業で単元計画から生徒に委ねる取り組みをしている。中にはすべての授業をゲームの活動にと提案する生徒もいたが、ゴールの意識をもたせることで、生徒同士で言語活動を含めた計画を立てることができた。（小）
 - 環境問題についても、自分の考えをもつ時間、クラスメイトと相談する時間を設けることで、考えを深めることができた。また、同じ活動を繰り返すことで生徒の活動の効率も向上が見られた。（中）
 - 「新しく赴任したALTに伝える」など相手意識が明確な活動では場面に応じた内容で自己表現しようとする姿が見られた。（中）
 - 1年生の活動で動画撮影の際、抵抗感が見られなかったことは小学校からの実践の積み重ねの成果だと感じた。（中）
- △ICTの自由度が増すと、調べたことを写して満足することがある。
- △検索した内容を自分が表現できる語彙などで表現する指導が必要である。
- △改善に生かすために録音や録画をして記録を残しているが、生徒自身は録音や録画から自分で間違いに気付けるのか、気付かせるための有効な指導が必要である。
- 教員が見取り、指導の改善に生かす必要がある。

■ 実践報告より

- ① 鹿島小（3年生）では、「This is for you. カードをおくろう」という単元で、色や形など、身の回りの物の言い方に慣れ親しみ、欲しいものを尋ねたり答えたりすることをねらいとした授業を行った。言い方がわからないときに、オクリンクに送られている音が鳴るカードで確認できるように工夫した。日本語を使わず、ジェスチャーを使いながら英語で伝えるなど自分で表現できるコミュニケーションが多く見られた。



- ②鳥屋小では毎週水曜日のお昼の放送で英語の発表をしている。

（5～9月、2～3月は6年生 10、11月は5年生 12、1月は4年生）

内容は Unit のパフォーマンステストの発表や先生クイズ、簡単な英会話などで、ALT の出身であるインドに関する行事の紹介やバレンタインに関するイベントなども紹介している。



発表をしてくれた児童には、
オリジナルの賞状を渡しています。

- ③鹿西小（6年生）では、Unit4 Let's see the World. という単元で、おすすめの国の魅力について、ペアやグループ内でアドバイスをし合い、自分の考えや気持ちを含めたり、内容を工夫して紹介することをねらいとした授業を行った。活動の様子を動画で取り合い、自己の振り返りにつなげることができた。

- ④中能登中（3年生）では、Unit3 Animals on the Red List という単元で、現状と自分の意見や考えを整理して、英文を引用したり内容に言及したりしながら環境問題についての記事を書くというねらいで授業を行った。ICT の活用としてオクリンクを活用し、単元で身に付けてほしい表現を提示したり、互いの意見を見られるようにしたりすることで「書く」活動を効果的に進めることができた。



輪島市

報告者：輪島市立輪島中学校
山本 安博

- 令和6年度郡市研究テーマ
「豊富なやり取りにあふれた教室～インプットからアウトプットへつなぐ～」

年間の活動内容

月日（曜）	研修会・行事等の概要
5月15日（水）	組織作り・年間計画作成 場 所：輪島中学校 時 間：15：30～16：40 内 容：組織作り・年間計画作成 参加者：9名
6月 5日（水）	県小中英研8地区発表会に向けて① 場 所：輪島中学校 時 間：15：30～16：40 内 容：発表テーマの設定 参加者：9名
7月24日（水）	県小中英研8地区発表会に向けて② 場 所：輪島中学校 時 間：15：30～16：40 内 容：現状分析・発表内容確認 参加者：9名
8月20日（水）	県小中英研8地区発表会に向けて③ 場 所：輪島中学校 時 間：15：30～16：40 内 容：各校実践紹介 参加者：9名
10月 9日（水）	県小中英研8地区発表会に向けて④ 場 所：輪島中学校 時 間：15：30～16：40 内 容：発表プレゼンづくり 参加者：9名
11月13日（水）	県小中英研8地区発表会に向けて⑤ 場 所：輪島中学校 時 間：15：30～16：40 内 容：発表練習・プレゼン修正 参加者：9名
1月15日（水）	年間のまとめ 場 所：オンライン（google meet） 時 間：15：30～16：40 内 容：郡市報告書、輪島市学教研研究紀要の確認 参加者：9名

■各校の実践紹介

【門前中：単元のゴール設定を意識した授業づくり】

門前中学校では、単元のゴールを意識した授業を行っています。写真は3年生 Unit 3 の1校時目の授業の様子です。始めに、その単元のゴールイメージを生徒に持たせるようにしています。

板書の右にあるのが、この単元のゴールイメージとなるレポートです。このように単元の目標を設定し、一つ一つの授業を課題を持って、取り組んでいます。



【東陽中：相手意識を持たせる工夫】



スライドを見せながら、プランを発表
【話すこと・発表】



発表内容を基に、掲示物を作成
【書くこと】



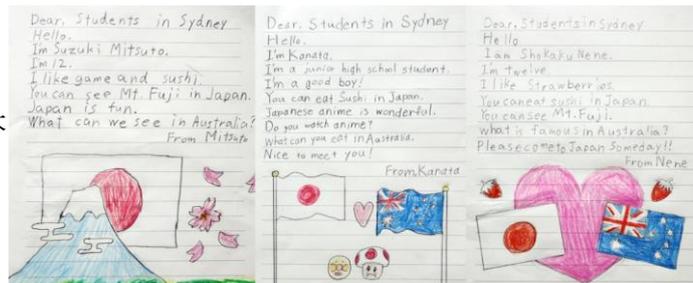
掲示物を町野小学校の廊下に掲示

- ・生徒名を伏せて掲示し、東陽中と町野小の児童生徒や教職員に読んでもらう。
- ・気に入った旅行プランにシールを貼って人気投票をしよう。

東陽中は1学期の間、隣接する町野小学校の校舎で授業を行っていました。そこで、2年生 Unit 2 の単元ゴールでは発表に使ったスライドを基に掲示物を作成し、共有の廊下に掲示しました。東陽中と町野小の児童生徒や教職員に読んでもらい、気に入った旅行プランにシールを貼って人気投票をしてみました。読み手がいつもと違うことで、書くことへのモチベーションが上がったことに加え、小学生もわかる単語も取り入れたりするなど、より相手を意識した活動にすることができました。

【輪島中：国際交流・相手意識】

1年生では、Unit 4 の単元末活動として、輪島市の現状を知って、オーストラリアの日本語補習校の生徒が送ってくれた手紙を読み、返信を書く活動を行いました。相手を意識して読み、読んだことをもとにして、Unit 4 で学んだ質問の仕方などを参考にして手紙を書きました。



実際に手紙を送ることで、生徒は受け取り手を意識して活動することができ、学習したことを自然と使用してまとまりのある英文を書いています。

■ 成果と課題

成果：各校がアウトプットのためのモチベーションを高める工夫や、相手意識を明確に持たせて課題に取り組むことができました。その結果、定期テストや学力テストなどで無解答率が減少し、自分の考えを表現しようとする姿が見られました。

課題：表現しようとする意欲の高まりがみられたものの、それに伴う正確さや適切さに対する指導が課題となってきました。また話すことから書くことへの段階的指導をどのように行っていくべきかという新たな課題も発見されました。

鳳珠郡

報告者：穴水町立穴水中学校

岡本 春佳

■ 令和6年度郡市研究テーマ

「豊富な英語のやり取りにあふれた教室」

令和2年度の小学校の教科化を受け、新たな英語教育を実施していくためには小中を通じた英語教育の充実・強化が求められている。小学校、中学校の目標の達成に向けて、各段階の学びを円滑に接続させることが不可欠である。そのために、今年度も継続し「豊富な英語のやり取りにあふれた教室」を主題として設定し、学習会や研究授業、情報交換を通して、小学校、中学校における指導の充実や、連携の在り方について研究をすすめてきた。

■ 年間の活動内容

月 日	内 容	場 所
4月24日(水)	・組織・計画づくり ・「話すこと」の指導について	穴水小
7月31日(水)	学習会	穴水小
10月2日(水)	公開授業(能都中 西門 綾子 教諭) New Horizon English Course Book 1 Unit6 “A Speech about My Brother” Story1	能都中
1月15日(水)	研究のまとめ	穴水小

■ 成果と課題

研究テーマ「豊富な英語のやり取り」に関して

【成果】

- ・目的・場面・状況の設定を明確にすることで、生徒の話す意欲が高まった。
- ・授業のねらいに応じて、導入で教師と生徒または生徒と生徒がやり取りをすることで、生徒の表現したいという気持ちを高めたり、学習の理解を促したりすることができた。
- ・失敗してもよいという声掛けや雰囲気づくりをすることができた。
- ・生徒に既習の表現を気づかせ、表現できることを増やそうと工夫した。

【課題】

- ・理想的な豊富なやり取りとは、授業でどのくらいの量を求めるのかを、教師自身が具体的にイメージもつことが大切である。
- ・生徒同士によるやり取りの量を充実させるためには、どうつなげていくかの指導が必要である。
- ・やり取りする中で、正確性を磨いたり、定着を図ったりするための工夫をする。

■ 活動内容

(1) 学習会

文部科学省/ mextchannel から

- ①「言語活動の設定の在り方 小中連携の視点から」全国学力・学習状況調査結果から考える中学校
外国語科の指導において大切なこと

解説者: 直山木綿子 文部科学省初等中等教育局 視学官

- ②大分県佐伯市立上堅田小学校 第5学年外国語科
単元「修学旅行の行き先を校長先生にプレゼンしよう」
中屋敷亜美 教諭

上記の動画を視聴し、効果的な指導について共通理解を図った。

【①の動画から】

- ・コミュニケーションを行う目的・場面・状況などを明確に設定する。
- ・全国学力調査の問題の指示文が場面設定などのヒントになる。
- ・導入が本時の内容にスムーズに結びつくものであった。

【②の動画から】

- ・ALTとのモデルをたくさん見せ、音に十分に触れ、慣れ親しんだことを自己表現させる。このことは、小中どちらでも生かすことが大切である。
- ・使用させたい表現をリピートによる練習ではなく、子どもに使いたいと思わせ、子どもから引き出す。

(2) 中学校英語科の授業公開(能都中 西門 綾子 教諭)

題 材: New Horizon English Course Book 1

Unit6 “A Speech about My Brother” Story1

ねらい: 他者を紹介する表現を学ぶために、教科書本文の内容を読み取り、その内容について理解することができる。

【読むこと】

本時の課題は『もっと詳しく人を紹介するには ～人が普段していることを伝えよう～』であった。学習活動として、ALT が「最近話題の力士について知りたい」という場面設定から課題が提示された後、本文の内容について確認、音読や要約を通して、三人称単数現在形について理解をし、力士についての紹介文を完成させることができた。

【成果】

①音読について

- ・いろいろなやり方をしていてテンポがよかった。
- ・わからないところを確認しながら進めていた。
- ・要約文をレベルに合わせて音読させるなど、自己決定の場があった。

②ねらいの達成につながる言語活動

- ・生徒からの気づきを大切にしていた。
- ・変化がある話す活動の繰り返しにより、豊富な英語のやり取りが可能になり、読むことのねらいの達成につながった。



【課題】

- ・三人称単数現在形の発音について、もっと詳しく確認してもよかったのではないかと。
→正しい音を生徒に伝える必要がある。
- ・要約文についての先生の見取りがうまくできていなかった。
→生徒が自己評価したり、ペアで評価したりなど、工夫があるとよかった。
- ・指示が曖昧な部分があった。

珠洲市

報告者：珠洲立緑丘中学校
末田 翔吾

- 令和6年度郡市研究テーマ
豊富な英語のやりとりに溢れた教室 ～進んで英語を使いたくなる場面設定の工夫～

■ 年間の活動内容

月日 (曜)	研修会・行事等の概要
4月24日 (水)	研究組織づくり、研究主題設定、年間計画の検討
7月 3日 (水)	実践交流、学習会 (県総合研修センター 西野指導主事を招いて)
10月16日 (水)	研究授業 New Horizon 2 Let's Talk 3 電車の乗り換え 一道案内ー 三崎中学校 苗代勇輝 教諭
11月22日 (金)	第14回珠洲市中学生英語スピーチコンテスト
11月27日 (水)	スピーチコンテストの振り返り、スペリングコンテストに向けて
12月20日 (金)	市スペリングコンテスト
2月 5日 (水)	研究のまとめ

■ 成果と課題

【成果】

- ・指導主事を招いて行った学習会を行うことで、生徒に力をつけるためのよりよい授業をするためには、どのような準備や活動へのフィードバックをするべきかを学ぶことができた。
- ・スピーチコンテストでは、大きな会場、大人数で行うことでより発表の準備をして臨むことができた。また、震災を乗り越えようとする生徒の頑張りが見られた。

【課題】

- ・各校が小規模だからこそ、生徒同士の関わりや、生徒と教師の関わりを増やした活動と指導 (フィードバック) を、単元を通して計画することが必要である。
- ・小中9年間を見通した英語学習の取り組みを行うため、また県英研の表記とそろえるため、次年度より部会名を「外国語研究部会」と改めたい。

■ 研究内容

(1) 実践交流・学習会

今後の実践に活かすことを目標に、「豊富な英語のやりとりに溢れた教室」を目指した普段の各学校での工夫を紹介し合った。県総合研修センター 西野真弓指導主事を招き、各取り組みに対する助言をいただいたり、活用事例を指導・紹介していただいたりした。

学習会のなかでは、やりとりと言っても生徒同士で行うやりとりと教師とのやりとりでは、教師のかかわり方は異なることを確認した。共通していることとしては、生徒自身に考えさせることが大切である。



(2) 研究授業

本時は Let's Talk3 の第2時で、主に目的地への電車での行き方を尋ねたり、答えたりする対話をペアでやりとりする活動を行った。参加者は視点として、豊富な英語のやりとりに溢れた教室を目指した、進んで英語を使いたくなる場面設定の工夫は効果的に働いていたかどうかについて、①生徒の様子、②教師の働きかけの2点で参観した。

授業は前時までに学んだ表現を想起させるところから始まり、ペアや行き先などを変更して活動と指導を繰り返すやりとりが展開されていた。場面設定の工夫としては、次年度に自分たちが訪れる修学旅行先の路線図を用いてやりとりを行うなど、実際に使う場面を思い浮かべやすいものであった。

授業整理会では、場面設定の工夫については、生徒の様子からも効果的であったことがわかったが、一方で形式的な対話から抜け出すことや、生徒を B 評価から A 評価へと導くための指導・支援をどのように行うかを準備しておくことが必要であるということを通理解した。



(3) 英語スピーチコンテスト

今回は、初めて緑丘中第一体育館で実施した。ALT によるウォームアップから、学年の垣根を超えた交流が見られ、温かい雰囲気の中で発表が行われた。

発表では能登半島地震を経て感じたことや、生徒数の関係で義務教育学校の中で前期課程の生徒も特別に参加するなど、聴衆の興味・関心を集めるテーマ設定や内容が見られた。



(4) 市スペリングコンテスト

今年度は、授業等での生徒の英語の使用の基盤となるのは語彙力であると改めて捉え、各校でスペリングコンテストに向けた取組を行った。緑丘中では、学級ごとの事前学習が活発に行われ、結果としても表彰者数は R5 年度の 40% から 50% へ増加したことが今年度の成果となった。

Grade	1st	2nd	3rd	4th	5th
12th	12.4	15.8	13.4	14.1	12.4
13th	15.6	15.8	11.8	14.2	11.6
16th	12.4	13.3	13.1	14.0	12.4
17th	12.0	13.0	12.4	14.1	14.6
18th	13.6	16.1	10.2	16.1	15.7
19th	14.0	16.1	15.6	16.5	16.7
20th	70.4	75.0	61.5	78.9	74.9